

印西市スポーツ推進基本計画

令和4(2022)年3月

印西市

明るく、楽しく、健康づくり

子どもから高齢者まで
スポーツに親しめる

印西市



印西市長

いたくら まさなお
板倉 正直

生活様式の先鋭化が加速するいま、その反動として現代人の運動不足や、健康疾患の若年層への拡大など、健康にかかわるさまざまな問題が各メディアでも取り沙汰されるようになりました。

結果、あらゆる世代において「健康志向」により熱い視線を向けるようになっております。

その一方で、近年、新型コロナウイルスの世界的な拡大に伴い、これまでの日常が変化し、運動やスポーツに親しむ機会などに制限が生じるようになりました。

この大きな変化に対し、わたしたちは直面することを余儀なくされ、それは今後も続くことになっていくでしょう。

そうした激動の世相ですが、わたしたちの住む印西市には、松山下公園総合体育館をはじめ、陸上競技場や野球場、テニスコートやフットサル場も整備されており、それらは健康づくりやスポーツ振興、ひいては市を代表するようなアスリート育成の貴重な土壌にもなっております。

このたび策定されたこの「印西市スポーツ推進基本計画」は、こうした新しい世相に向き合い、運動・スポーツに対する市の取り組みや指標をまとめた計画となっております。

本計画がこれまで以上に市民の皆様が運動・スポーツへ関心を深めていただき、明るく・楽しい健康づくりに向き合う一助となることを深く望みます。

結びに、本計画の策定に当たり、ご尽力いただきました印西市スポーツ推進審議会委員をはじめ、市民意見公募などでご協力いただきました皆様に深く感謝申し上げます。

令和4年3月

目次

第1章 計画の策定にあたって.....	1
1 計画策定の背景と趣旨.....	1
2 計画の位置づけ.....	2
3 計画の期間.....	3
4 計画策定の体制.....	3
5 計画の推進体制.....	4
6 計画の進行管理.....	4
7 スポーツ分野を取り巻く国や県の動向.....	5
第2章 アンケート集計結果.....	6
1 統計データ等からみる現状.....	6
2 アンケートからみる現状.....	10
3 団体調査からみる現状.....	25
4 現行計画の評価.....	30
5 課題のまとめ.....	31
第3章 計画の基本的な考え方.....	33
1 基本理念.....	33
2 基本目標.....	34
3 計画の体系.....	35
第4章 計画の具体的な取り組み.....	36
基本目標1 スポーツ参画人口の拡大と人材育成.....	36
基本目標2 スポーツ環境の充実.....	39
基本目標3 スポーツを通じた共生社会の実現と地域の活性化.....	41
資料編.....	44
1 印西市スポーツ推進審議会条例.....	44
2 印西市スポーツ推進審議会 委員名簿.....	46
3 策定経過.....	47
4 用語解説.....	48

第 1 章 計画の策定にあたって

1 計画策定の背景と趣旨

国では、平成 23 年 6 月に「スポーツ基本法」が制定され、スポーツに関する基本理念、国及び地方公共団体の責務が明確にされました。

また、平成 24 年には「スポーツ基本計画」が、平成 29 年には「第 2 期スポーツ基本計画」が策定され、スポーツ立国を実現するために国民、スポーツ団体、民間事業者、地方公共団体、国などが一体となって取り組むための指針として示されました。

本市では、平成 20 年 3 月に「スポーツ振興基本計画」を策定し、「するスポーツ」「みるスポーツ」「ささえるスポーツ」の振興を図り、スポーツの推進に取り組んできました。

平成 29 年 12 月には「教育振興基本計画」として、教育振興、生涯学習、スポーツ、文化芸術の 4 つの教育分野の計画を包括し、市の教育や学習、スポーツ等の施策を総合的に展開してきました。

そしてこの度、市は行政組織改革基本方針として「事務の効率化」「部・課の組織体制強化」「新たな課題への対応」の 3 本の柱を定め、そのうちの「新たな課題への対応」の一つとして「市民の健康の増進」を目標とした組織再編を実施しました。

スポーツを通じた市民の健康づくりにこれまで以上に効果的なものとし、スポーツ施策と健康施策の連携を図るため「教育部」から「健康子ども部」へスポーツ振興課を移動し「教育振興基本計画」に内包されていたスポーツ施策に関する指標を新たに「スポーツ推進基本計画」として単独で策定することとなりました。

スポーツ施策を取り巻く現状として、前計画の期間中は、2019 年ラグビーワールドカップの日本初開催や 2021 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を好機として、スポーツに対する意識や関心が一層高まりを見せました。一方で、新型コロナウイルスの世界的な拡大により、スポーツ活動の自粛や運動施設、競技場などの閉鎖を余儀なくされ、スポーツにおいて重要な「する」「みる」「ささえる」の関わり方も大きく変化しました。

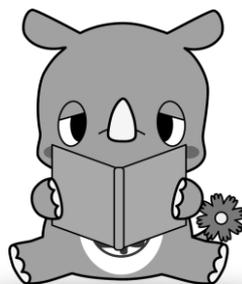
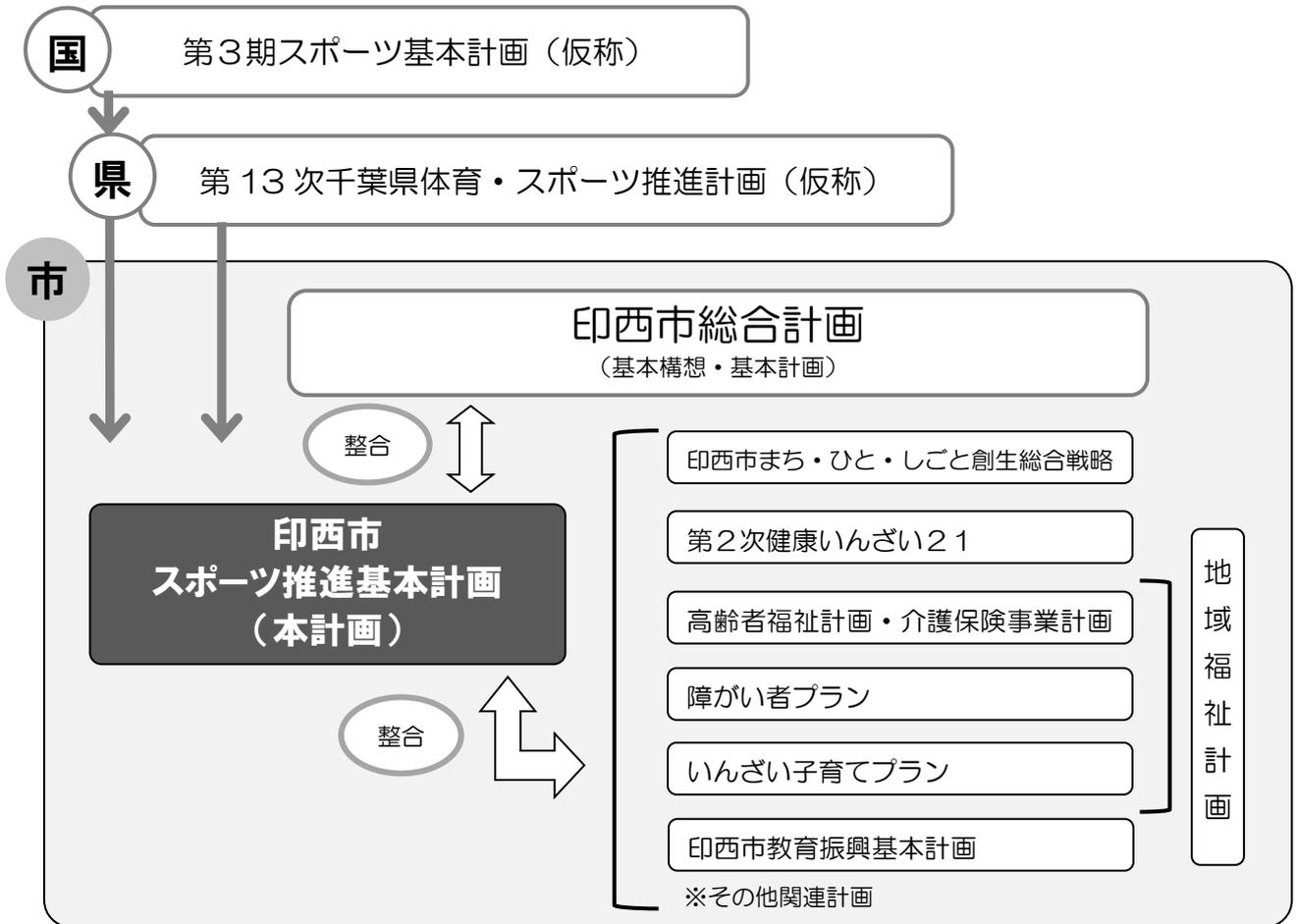
本計画の策定にあたっては、こうした国の動向やスポーツを取り巻く様々な現状を踏まえる必要があります。本市では「新しい生活様式」に対応したスポーツへの関わり方を取り入れながら、スポーツへの参加機会の拡充や、スポーツ団体、指導者への支援などに取り組んで参りました。

そして、子どもから高齢者まで市民一人ひとりが生涯にわたり運動・スポーツを楽しむことができる社会を目指し、本計画を推進して参ります。

2 計画の位置づけ

本計画の策定については、スポーツ基本法第10条「地方スポーツ推進計画」に該当するものとして、スポーツ基本法の理念に則り、国のスポーツ政策の基本的方向を示す指針である「スポーツ基本計画」を踏まえるとともに、県のスポーツに関する計画、本市の最上位計画である印西市総合計画など、関連する施策分野別計画との整合性を図っています。

●●関係図



3 計画の期間

本計画は、令和4年度～令和8年度の5年間を期間とします。

●●本計画及び関連計画の期間

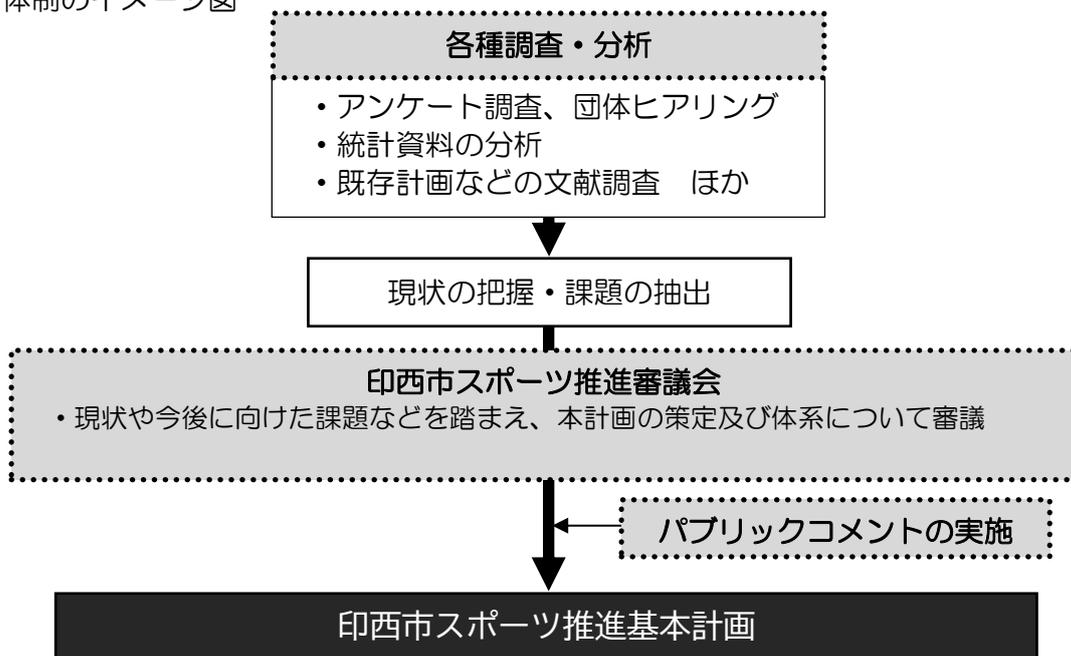
平成/令和	29	30	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
印西市総合計画												
印西市まち・ひと・しごと創生総合戦略					第2期印西市まち・ひと・しごと創生総合戦略と一体的に推進							
第2次健康いんざい21												
第2期教育振興基本計画												
スポーツ推進基本計画(本計画)	(平成29～令和3年)教育振興基本計画に包含											

4 計画策定の体制

本計画は、学識経験者などで構成された「印西市スポーツ推進審議会」に意見を伺い、検討を経て策定しています。

また、策定にあたっては、10歳代から70歳の市民へ向けたアンケート調査や各スポーツ団体へのヒアリング、パブリックコメントの実施を通じ、ニーズの把握、意見の収集に努めました。

●●体制のイメージ図



5 計画の推進体制

本計画を推進するためには、スポーツに関わるすべての人が、それぞれが担う基本的な役割と責任を自覚し、相互に連携し協力して取り組む必要があります。スポーツ振興課を中心に全庁が一体となり、国や県をはじめ、学校・家庭・地域及び企業や市民団体など、すべての主体が連携・協働し、計画を推進していきます。

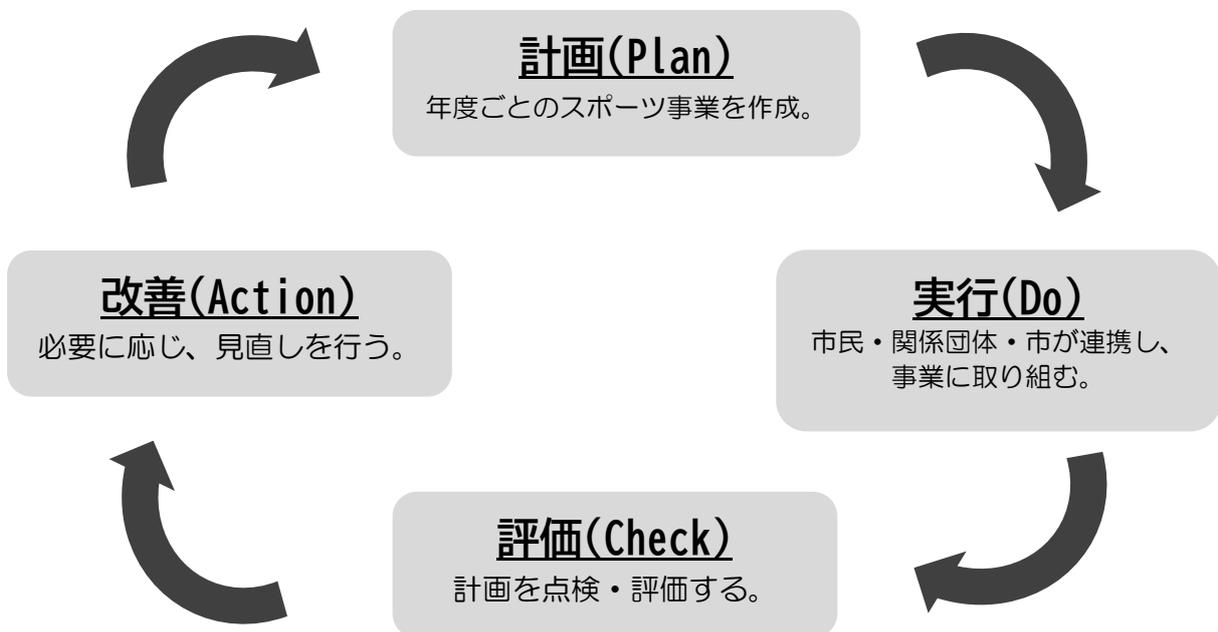
6 計画の進行管理

本計画の各施策を効果的かつ確実に推進するためには、定期的に進捗状況や効果などの進行管理を行う必要があります。そのため、本計画で示した事業や目標数値の進行管理を実施し、その結果については、市ホームページに公表します。

本計画の効果的な推進に向けて、各施策をPDCAサイクルに基づき実施します。

PDCAサイクルとは、計画（Plan）をたて、それを実行（Do）し、実行の結果を評価（Check）して、さらに計画の見直し（Action）を行うという一連の流れをシステムとして進めていく方法です。

●●PDCAサイクルのイメージ



7 スポーツ分野を取り巻く国や県の動向

●●国・県の動向

国

スポーツ立国戦略（平成 22 年 8 月）

スポーツ基本法（平成 23 年 6 月）

スポーツ基本計画（平成 24 年 3 月）

基本方針 年齢や性別、障害等を問わず、広く人々が、関心、適性等に応じてスポーツに参画することができる環境を整備

スポーツ庁の設置（平成 27 年 10 月）

政策 ●国民のスポーツライフ ●子どもの体力向上
●障害者スポーツ ●競技力の向上 等

第 2 期スポーツ基本計画（平成 29 年 3 月）

ポイント1 スポーツの価値を具現化し発信。スポーツの枠を超えて異分野と積極的に連携・協働。

ポイント2 数値を含む成果指標を第 1 期計画に比べ大幅に増加(8⇒20)。

ポイント3 障害者スポーツの振興やスポーツの成長産業化など、スポーツ庁創設後の重点施策を盛り込む。

基本方針

- スポーツで「人生」が変わる！ ～スポーツで、楽しく健康で活力ある人生に～
- スポーツで「社会」を変える！ ～スポーツで、社会の課題解決に貢献～
- スポーツで「世界」とつながる！ ～スポーツで、世界の絆づくりに貢献～
- スポーツで「未来」を創る！ ～一億総スポーツ社会づくり～
「するスポーツ」「みるスポーツ」「ささえるスポーツ」の推進

経済財政運営と改革の基本方針 2021

新型コロナウイルスを受けて、＜「新たな日常」が実現される地方創生＞の中で、国民が再び活力と潤いのある豊かな生活を取り戻すことができるよう、スポーツ・文化芸術活動の再開・継続・発展を力強く支援することが明記

県

第 1 2 次「千葉県体育・スポーツ推進計画」（平成 29 年 4 月策定）

千葉県体育・スポーツ推進の基本理念

「全ての県民が多面にわたるスポーツの価値を基盤にしながら、健康で活力ある生活を送り、互いに支え合う『スポーツ立県ちば』」

- ・ リンク A 「子どもの体力向上と学校体育活動の充実」
- ・ リンク B 「運動・スポーツを楽しむための健康・体力づくり」
- ・ リンク C 「スポーツ環境の整備」
- ・ リンク D 「競技力の向上」
- ・ リンク E 「東京オリンピック・パラリンピックを契機としたスポーツの推進」
- ・ リンク F 「スポーツによる地域づくりの推進」

第2章 アンケート集計結果

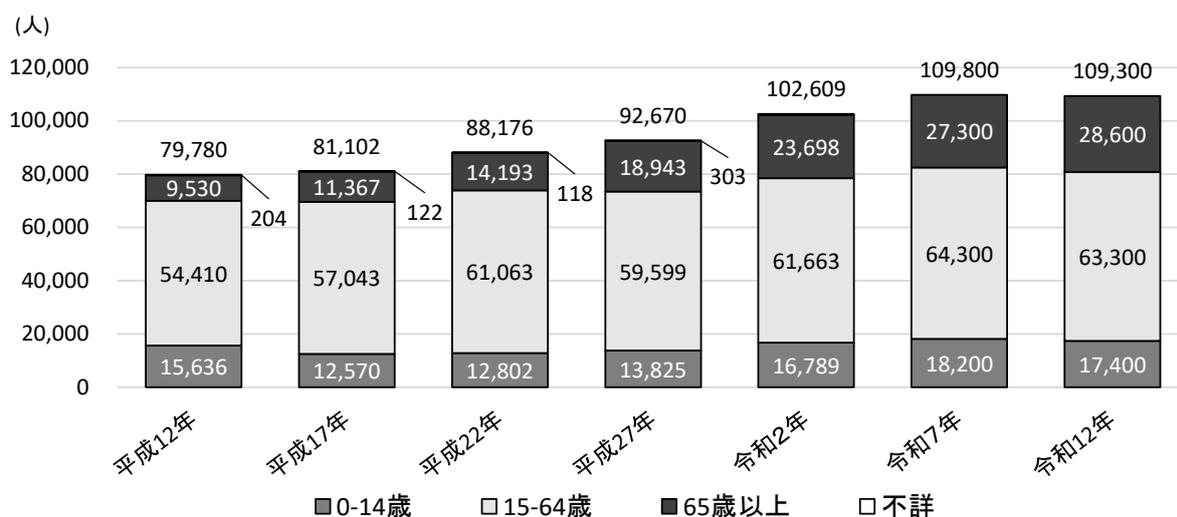
1 統計データ等からみる現状

(1) 人口の状況

人口の推移をみると、平成12年から令和2年にかけて増加傾向となっています。3区分別人口の状況を見ると、0-14歳では平成12年から平成17年にかけて減少していましたが、平成22年以降は増加傾向となっています。15-64歳では平成27年で減少傾向となりましたが、令和2年で再び増加となっています。65歳以上では一貫して増加傾向となっています。

人口の推計については、令和7年まで増加傾向ですが、令和12年には減少傾向に転じる見込みです。

●●人口の推移と推計

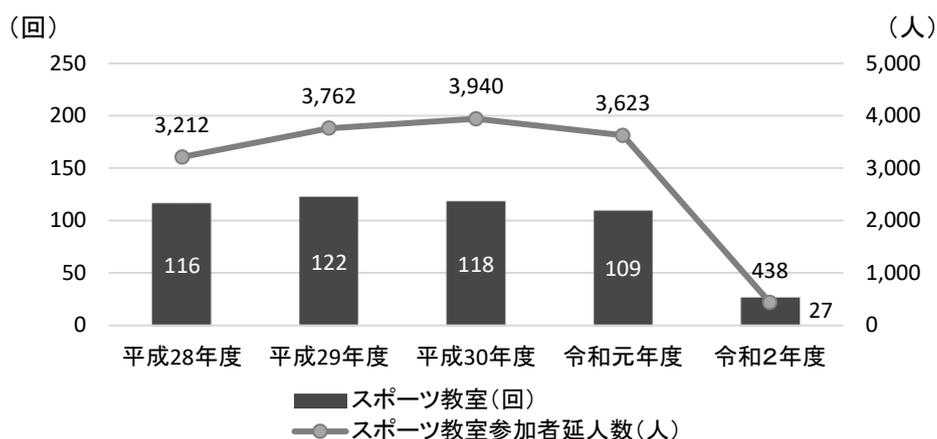


参考資料：平成12～令和2年は「国勢調査」、令和7年以降は「印西市総合計画」による推計値

(2) スポーツ活動に関する状況

スポーツ教室の開催回数については平成 28 年度から平成 29 年度にかけて増加していましたが、平成 30 年度以降は減少傾向となっており、令和 2 年度は新型コロナウイルスの影響により大きく減少しています。参加者延べ人数については、平成 30 年度まで増加で推移していましたが、令和元年度では減少となっており、令和 2 年度は新型コロナウイルスの影響により大きく減少しています。

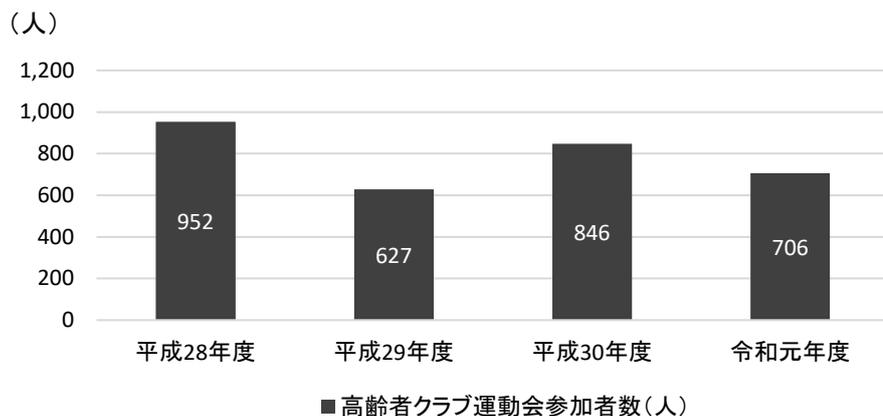
●●スポーツ教室の状況



参考資料：スポーツ振興課

高齢者クラブ運動会参加者については、年によって差があり、令和元年度では 706 人となっています。

●●高齢者クラブ運動会参加者の状況



参考資料：高齢者福祉課（※令和 2 年度は中止）

(3) 市内のスポーツ施設の利用状況

直近3年間の市内のスポーツ施設の状況をみると、牧の原公園、木下交流の杜公園で利用が増加傾向にあります。 単位：人

松山下公園				
年度	陸上競技場	野球場	テニスコート	合計
平成30年度	17,886	23,925	32,599	74,410
令和元年度	18,558	32,464	30,097	81,119
令和2年度	6,171	27,191	27,855	61,217

松山下公園総合体育館				
年度	メインアリーナ	サブアリーナ	武道場	多目的室
平成30年度	51,899	32,083	19,943	20,581
令和元年度	42,492	24,615	17,978	20,989
令和2年度	41,146	25,257	21,647	17,596
	会議室	弓道場	トレーニング ルーム	合計
平成30年度	18,645	4,073	16,556	163,780
令和元年度	15,985	1,673	14,116	137,848
令和2年度	4,081	2,760	6,242	118,729

高花公園			
年度	野球場	テニスコート	合計
平成30年度	25,905	3,634	29,539
令和元年度	25,515	3,346	28,861
令和2年度	25,583	3,032	28,615

牧の原公園		
年度	テニスコート	合計
平成30年度	9,019	9,019
令和元年度	9,479	9,479
令和2年度	10,182	10,182

東京電機大学平岡グラウンド			
年度	野球場	球技場	合計
平成30年度	2,636	3,271	5,907
令和元年度	2,689	2,415	5,104
令和2年度	2,600	4,138	6,738

印旛中央公園					
年度	野球場	テニス コート	弓道場	多目的運動 広場	合計
平成30年度	23,705	5,104	1,709	13,981	44,499
令和元年度	20,216	4,631	1,095	13,260	39,202
令和2年度	9,823	4,947	969	14,523	30,262

印旛西部公園				
年度	野球場	テニスコート	多目的運動広場	合計
平成30年度	9,996	2,380	4,302	16,678
令和元年度	6,479	2,096	2,677	11,252
令和2年度	9,247	2,272	4,314	15,833

平賀学園台緑地		
年度	テニスコート	合計
平成30年度	2,933	2,933
令和元年度	11,793	11,793
令和2年度	4,699	4,699

萩原公園		
年度	テニスコート	合計
平成30年度	5,157	5,157
令和元年度	4,485	4,485
令和2年度	4,917	4,917

本笠スポーツプラザ				
年度	野球場	テニスコート	多目的球技場	合計
平成30年度	20,265	5,988	8,699	34,952
令和元年度	19,661	4,913	3,040	27,614
令和2年度	11,339	5,349	6,075	22,763

泉公園		
年度	パークゴルフ場	合計
平成30年度	10,902	10,902
令和元年度	10,414	10,414
令和2年度	9,745	9,745

木下交流の杜公園		
年度	多目的運動場	合計
平成30年度	4,271	4,271
令和元年度	6,355	6,355
令和2年度	6,990	6,990

木下交流の杜コスモスフットサルパーク ※令和2年4月1日オープン		
年度	フットサル場	合計
平成30年度	—	—
令和元年度	—	—
令和2年度	14,973	14,973

2 アンケートからみる現状

(1) 調査の目的

本計画の策定にあたり、市民の運動・スポーツに関する日頃の活動についてのご意見を伺い、子どもから高齢者までが心身ともに健康で明るく生活できるよう、運動・スポーツに参加しやすい環境づくりを目指すための基礎資料とすることを目的として実施しました。

(2) 調査の概要

調査対象者	10歳代から70歳代の市民3,000名（無作為抽出）
調査期間	令和3年3月11日～3月25日
調査方法	郵送配布・回収
有効回収数	1,686件
有効回収率	56.2%

●● 報告書の見方

- 回答結果は、小数第2位を四捨五入した有効サンプル数に対して、それぞれの回答の割合を示しています。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「n（number of case）」は有効標本数（集計対象者総数）を表しています。
- グラフや表中の表記について、不鮮明になる場合は簡略化している場合があります。
- 調査結果の経年比較を行うにあたり、一部質問で平成18年度に印西市にて実施したアンケート調査結果を用い比較を行っています。また、国との比較を行うにあたり、一部質問で令和元年度に国で実施した「令和元年度 スポーツの実施状況等に関する世論調査」を用い比較を行っています。



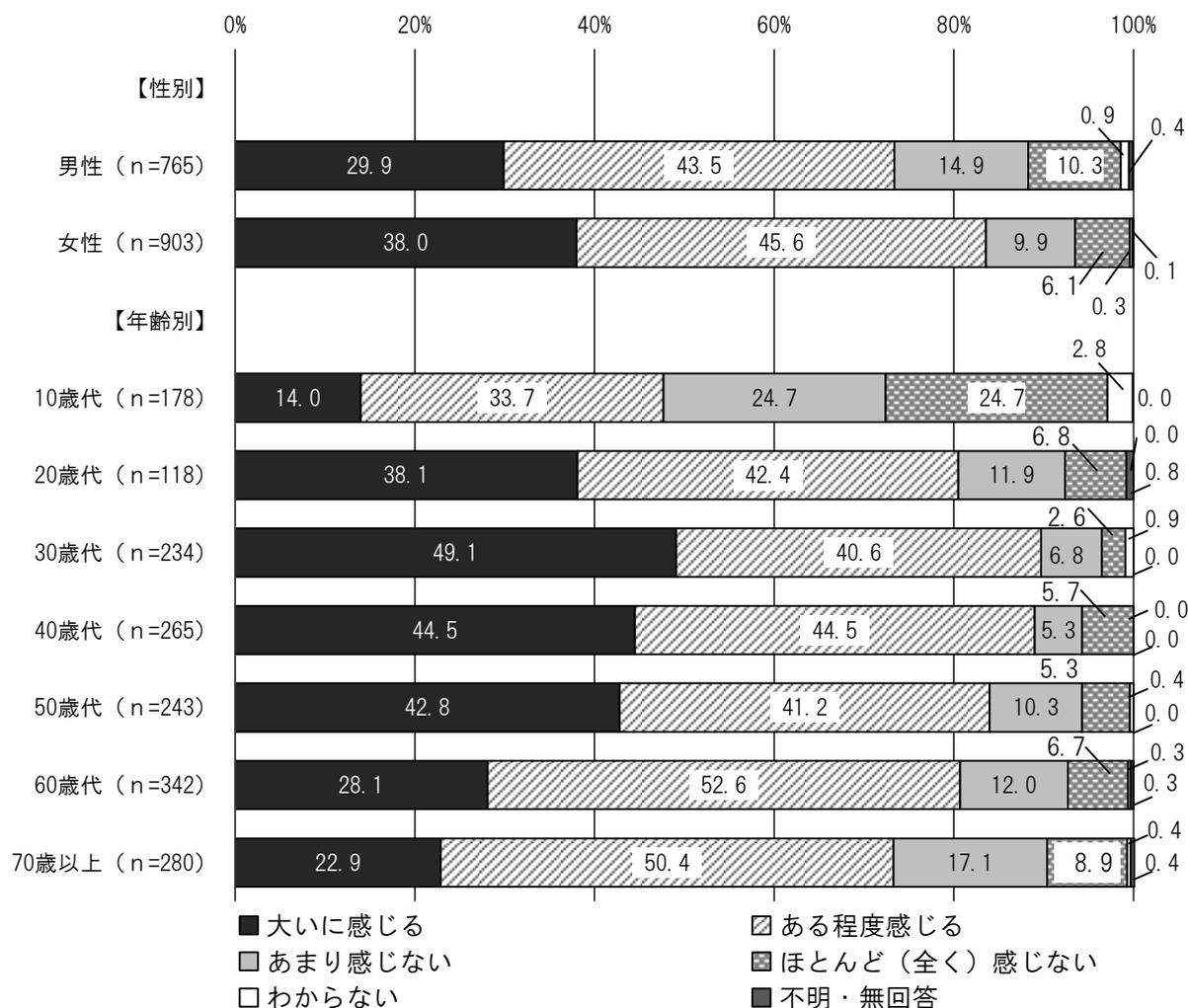
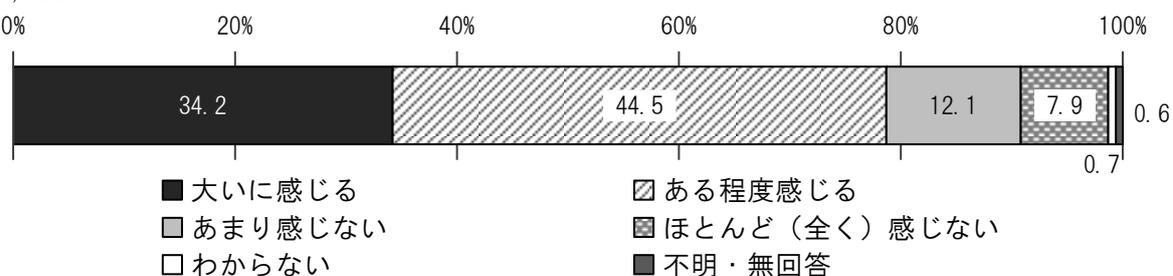
(3) 結果の概要

①健康の状況について

●あなたは、普段、運動不足を感じますか。(〇は1つ)

運動不足を「大いに感じる」と「ある程度感じる」の合計が約8割と、ほとんどのの方が運動不足を感じています。性別で見ると運動不足を感じる方は女性に多い傾向にあり、年齢別にみると30歳代から40歳代の働き盛りの世代で約9割と多くなっています。

n=1,686



②運動・スポーツの実施状況や意向について

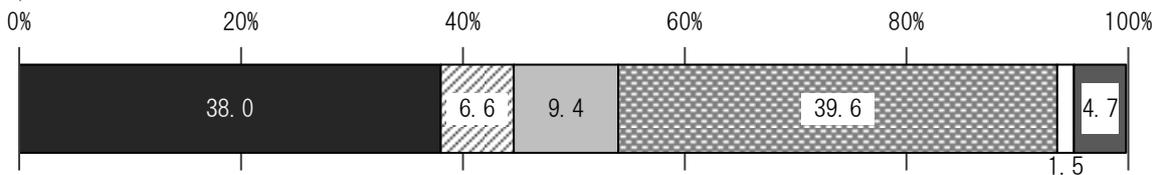
●ここ数年で、何らかのスポーツを行いましたか。

スポーツの実施状況については、新型コロナウイルスの流行前である 2019 年では、何らかのスポーツを『行った』割合は 54.0%でしたが、コロナ禍の 2020 年では 43.7%と、スポーツを行った割合が約 10 ポイント減少しています。

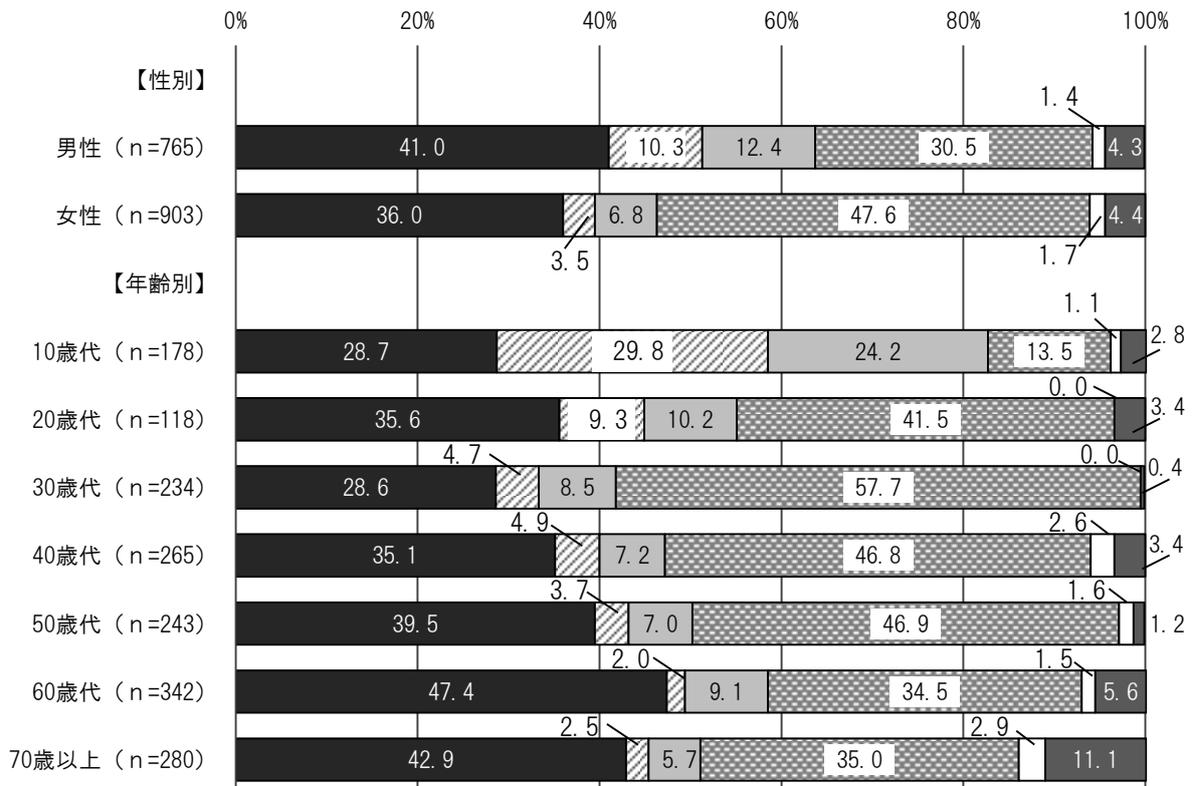
男女別にみると、何らかのスポーツを『行った』割合はコロナ前、コロナ禍ともに男性で多くなっています。年齢別にみると、10 歳代でコロナ前で約 8 割、コロナ禍で約 7 割と高くなっており、20 歳代から 30 歳代にかけて減少しています。

【2019 年 1～12 月（コロナ前）】

n=1,686



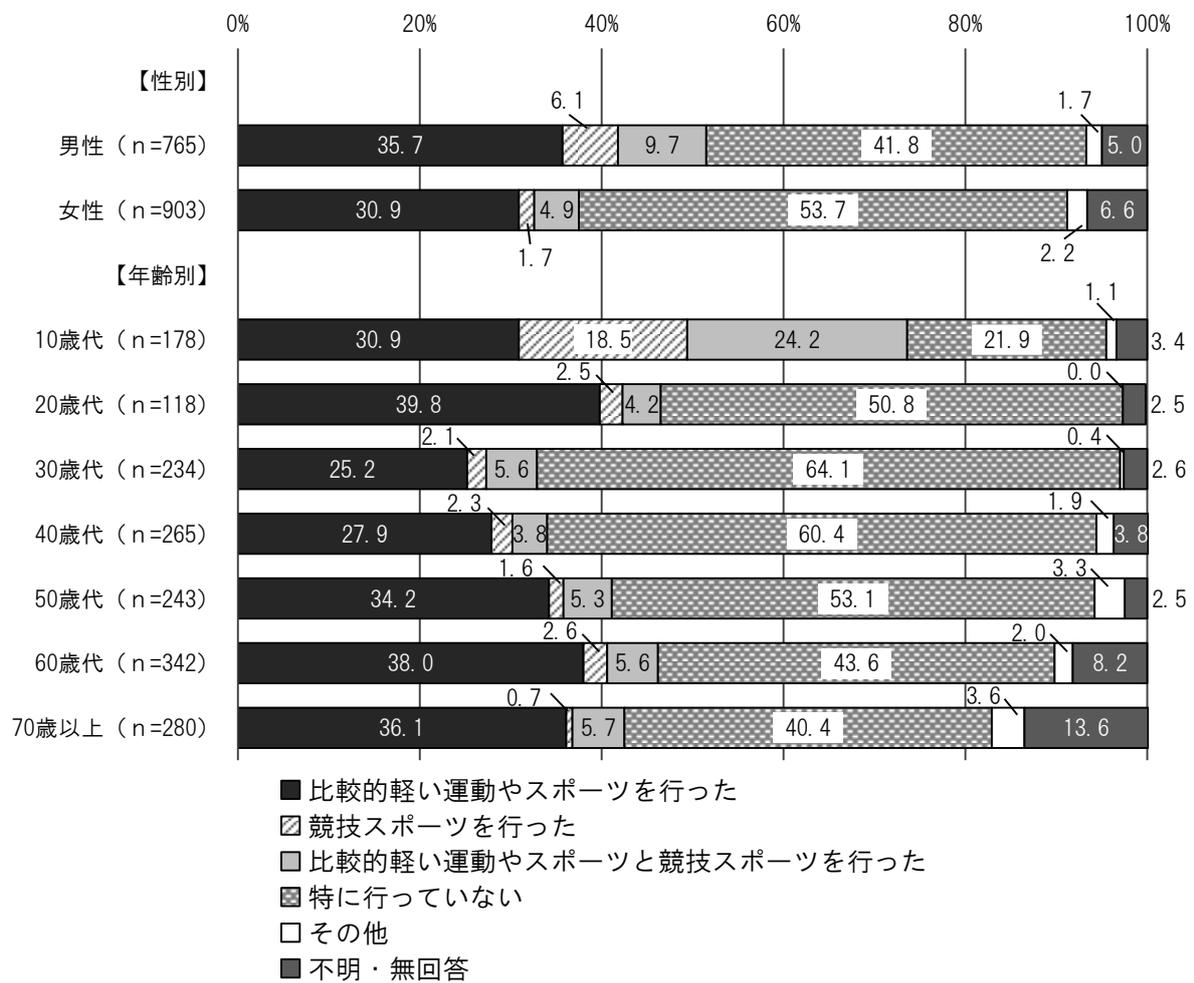
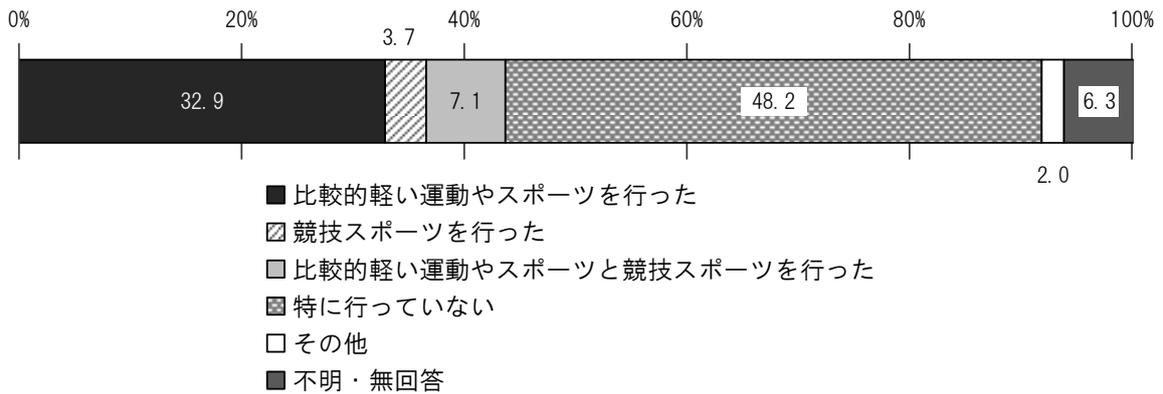
- 比較的軽い運動やスポーツを行った
- ▨ 競技スポーツを行った
- ▩ 比較的軽い運動やスポーツと競技スポーツを行った
- ▤ 特に行っていない
- その他
- 不明・無回答



- 比較的軽い運動やスポーツを行った
- ▨ 競技スポーツを行った
- ▩ 比較的軽い運動やスポーツと競技スポーツを行った
- ▤ 特に行っていない
- その他
- 不明・無回答

【2020年1~12月（コロナ禍）】

n=1,686

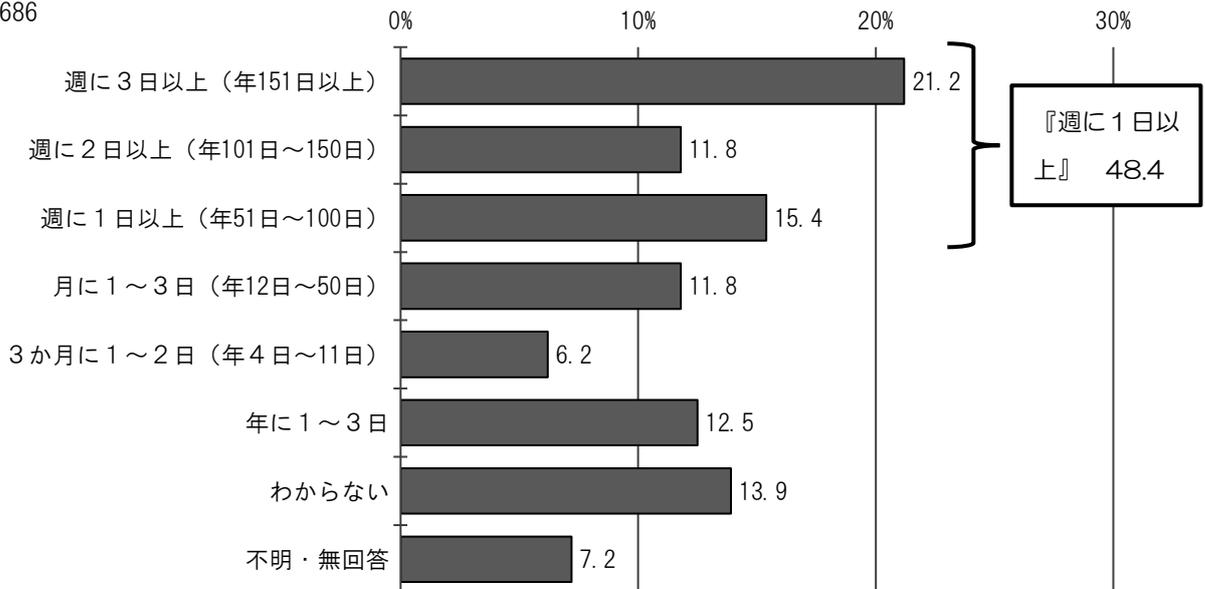


●運動やスポーツを実施した日数を全部合わせると、何日くらいになりますか。

運動の日数については、『週に1日以上』がコロナ前で48.4%、年齢別では10歳代ではコロナ前で84.9%です。一方コロナ禍では『週に1日以上』が39.5%とコロナ前より約10ポイント減少し、10歳代ではコロナ禍で73.0%となっています。また、男女別にみると、『週に1日以上』が女性に比べ、男性で多くなっています。そして、20歳代から50歳代の働く世代で、減少しています。一方、60歳以上では働く世代に比べ運動の頻度が多くなっています。

【2019年1～12月（コロナ前）】

n=1,686

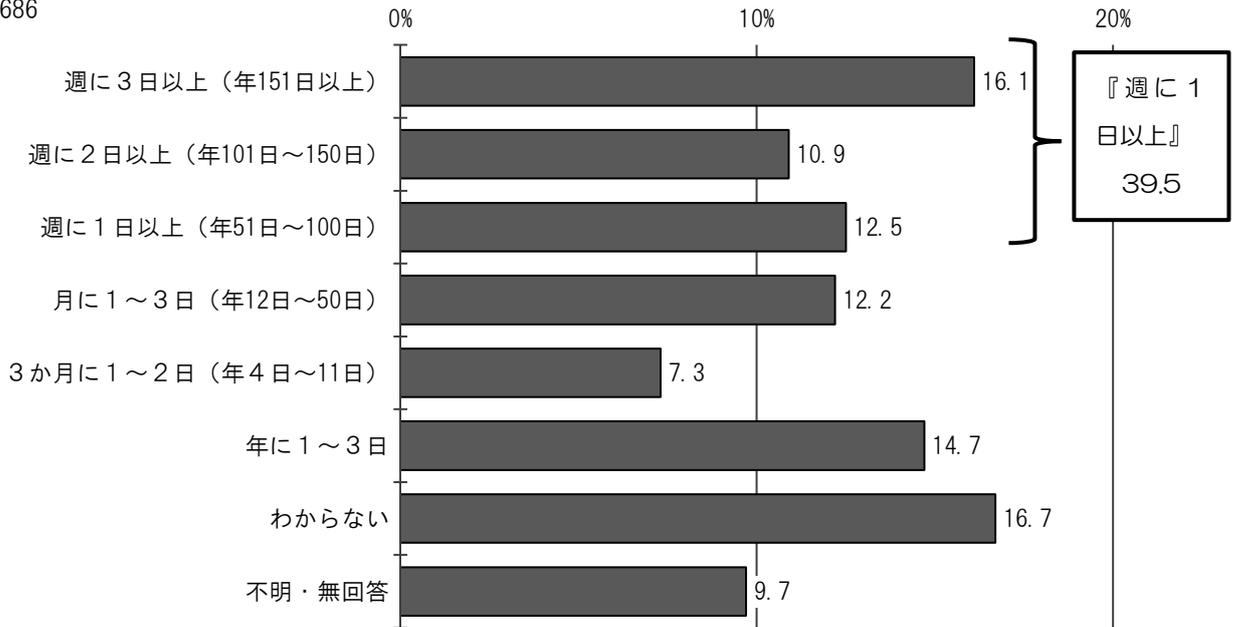


	週に3日以上 (年151日以上)	週に2日以上 (年101日～150日)	週に1日以上 (年51日～100日)	月に1～3日 (年12日～50日)	3か月に1～2日 (年4日～11日)	年に1～3日	わからない	不明・無回答
【性別】								
男性 (n=765)	24.6	14.0	16.7	11.8	6.1	10.5	10.6	5.8
女性 (n=903)	18.6	10.0	14.4	11.7	6.3	14.4	16.7	7.9
【年齢別】								
10歳代 (n=178)	57.9	14.6	12.4	5.6	1.1	2.2	3.9	2.2
20歳代 (n=118)	12.7	8.5	14.4	14.4	14.4	14.4	17.8	3.4
30歳代 (n=234)	11.5	5.6	15.0	17.9	8.5	20.5	19.2	1.7
40歳代 (n=265)	11.3	11.7	14.3	15.5	9.4	17.7	16.6	3.4
50歳代 (n=243)	14.8	11.5	17.7	11.1	6.2	18.5	17.3	2.9
60歳代 (n=342)	19.9	17.5	17.3	11.1	4.7	9.1	12.6	7.9
70歳以上 (n=280)	26.4	10.7	14.3	7.9	3.2	6.4	10.4	20.7

『週に1日以上』 84.9

【2020年1～12月（コロナ禍）】

n=1,686



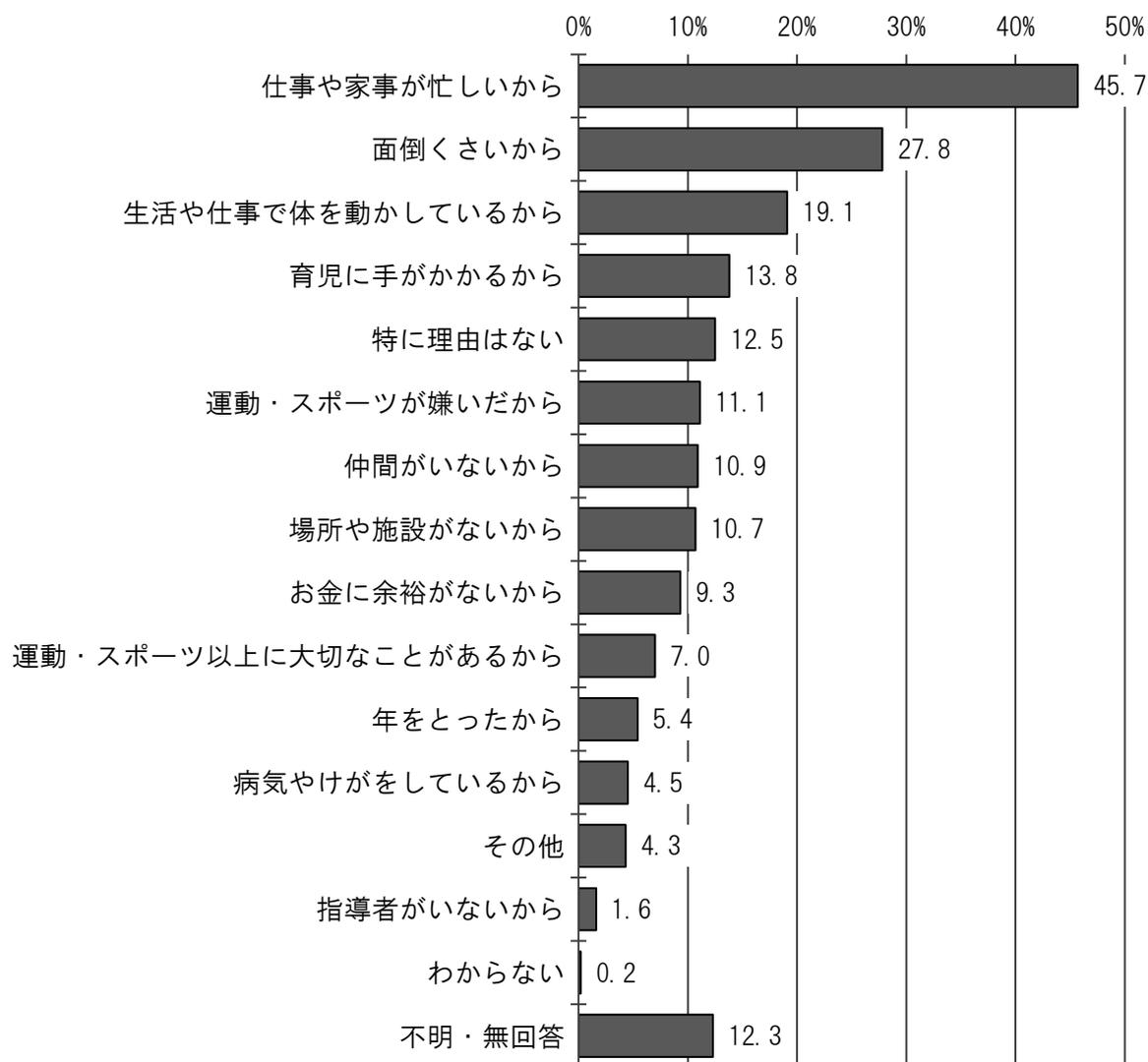
	週に3日以上 (年151日以上)	週に2日以上 (年101日～150日)	週に1日以上 (年51日～100日)	月に1～3日 (年12日～50日)	3か月に1～2日 (年4日～11日)	年に1～3日	わからない	不明・無回答
【性別】								
男性 (n=765)	17.9	12.9	14.6	13.1	7.5	12.7	13.3	8.0
女性 (n=903)	14.7	9.3	10.9	11.3	7.3	16.4	19.5	10.6
【年齢別】								
10歳代 (n=178)	41.6	15.7	15.7	14.6	1.1	2.8	5.1	3.4
20歳代 (n=118)	11.9	6.8	11.9	15.3	11.9	19.5	17.8	5.1
30歳代 (n=234)	7.7	8.5	8.5	15.0	11.1	22.2	22.6	4.3
40歳代 (n=265)	9.1	8.7	12.5	12.1	9.1	21.1	22.3	5.3
50歳代 (n=243)	12.8	9.9	12.8	10.3	7.4	19.8	22.2	4.9
60歳代 (n=342)	14.0	15.2	14.9	11.4	7.0	11.4	14.3	11.7
70歳以上 (n=280)	20.7	10.0	12.1	9.6	4.3	8.2	11.4	23.6

『週に1日以上』 73.0

●運動・スポーツをしなかった理由は何ですか。【2019年1～12月（コロナ前）で、月に1～3日以下の頻度だった方のみ】

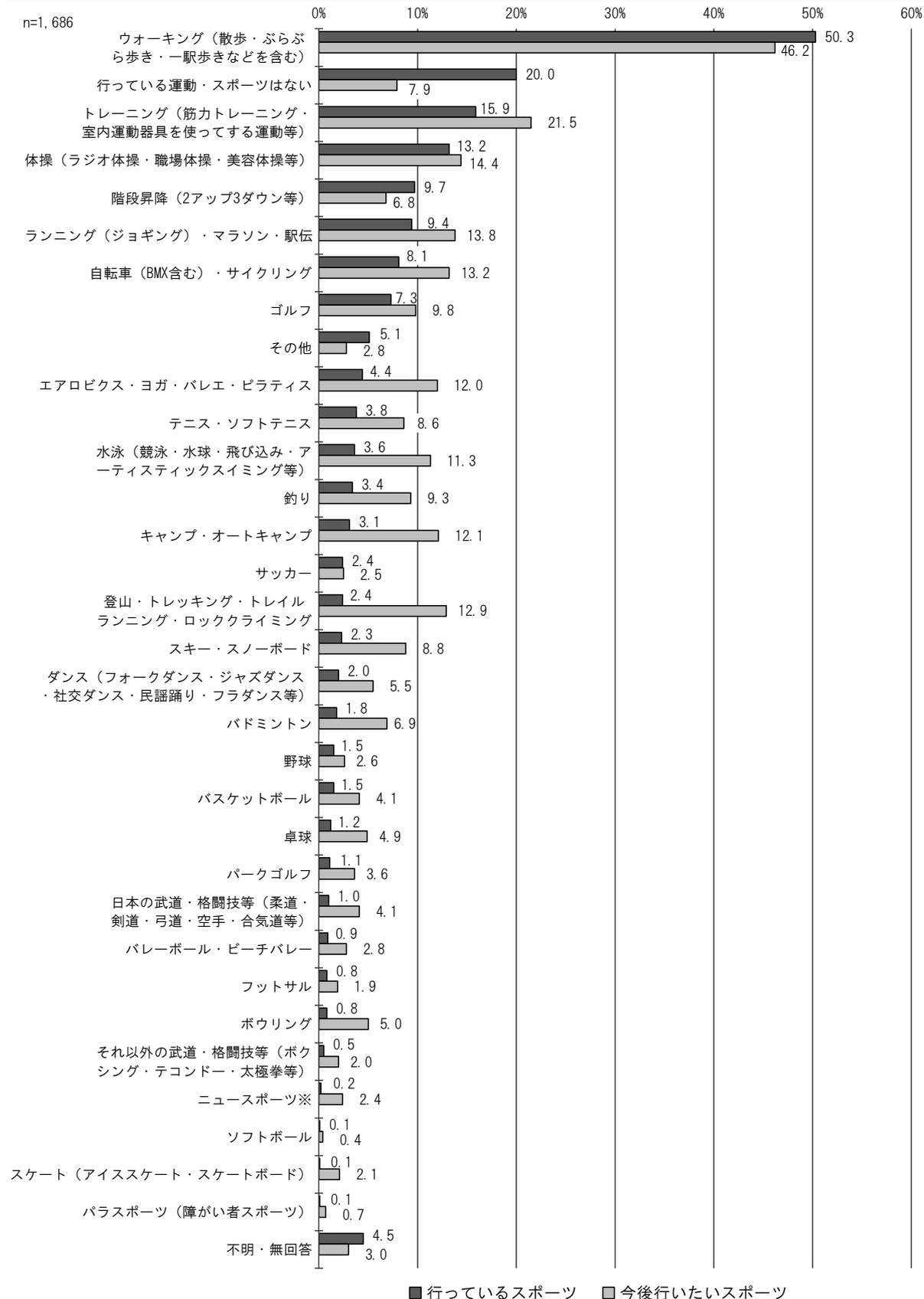
運動やスポーツをしなかった理由は「仕事や家事が忙しいから」が45.7%と最も多く、次いで「面倒くさいから」が27.8%となっています。

n=514



●現在行っている、今後行いたい運動・スポーツを教えてください。

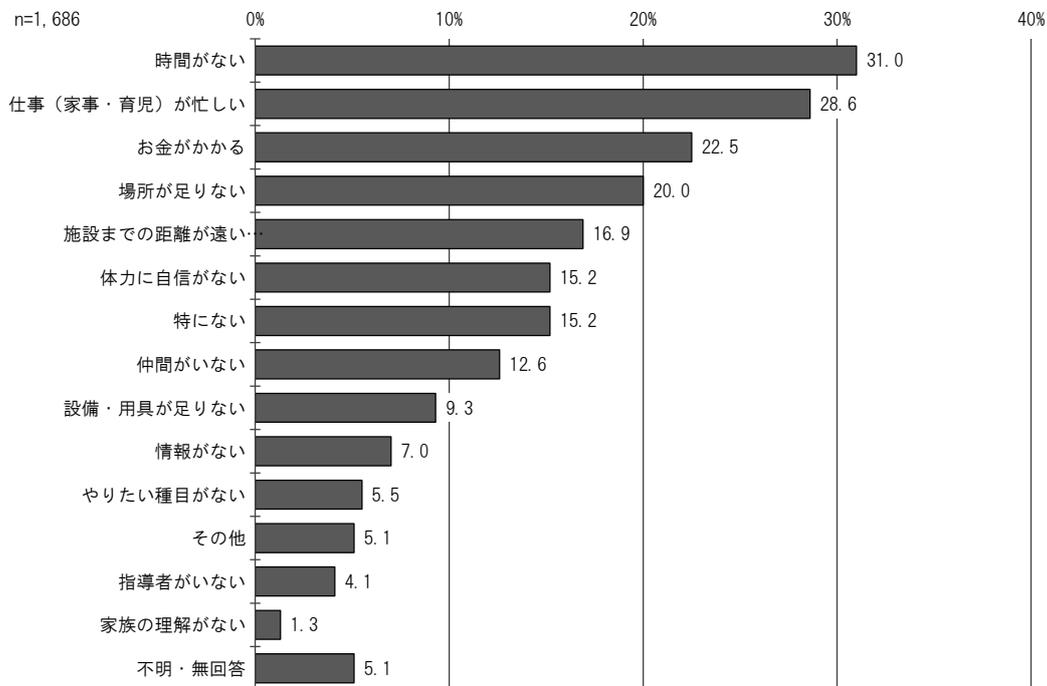
現在行っているスポーツは、「ウォーキング」「トレーニング」「体操」の順で多くなっています。また、今後行いたいスポーツについても、「ウォーキング」「トレーニング」「体操」の順で多くなっています。



※ニュースポーツ：ティーボール・フライングディスク・インディアカ・ワンバウンドふらばーるバレーボール・ミニバドミントン・スポーツチャンバラ・ユニカール・アルティメット・キンボール・シャフルボード・バタンク・綱引き・ダーツ・スポーツ吹き矢等を指します。

●運動・スポーツをするときに妨げになることは何ですか。

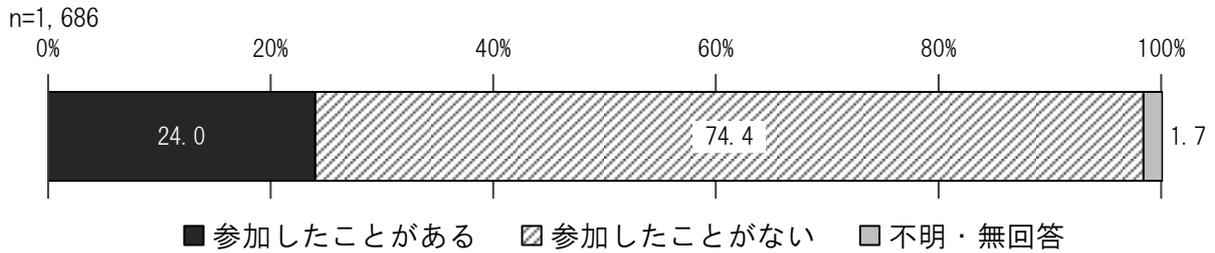
運動・スポーツの妨げになる原因として、「時間がない」が最も多く、次いで「仕事（家事・育児）が忙しい」「お金がかかる」が多くなっています。性別では概ね同様の傾向となっており、年齢別においても20歳代から50歳代で「時間がない」が最も多いものの、10歳代で「場所が足りない」が、60歳代で「仕事（家事・育児）が忙しい」が最も多くなっています。



	場所が足りない	設備・用具が足りない	仕事（家事・育児）が忙しい	時間がない	仲間がいない	指導者がいない	お金がかかる	施設までの距離が遠い（交通アクセスが悪い）
【性別】								
男性（n=765）	24.8	11.8	24.1	27.5	14.1	4.4	21.6	14.4
女性（n=903）	16.2	7.3	32.9	34.4	11.5	3.9	23.4	19.2
【年齢別】								
10歳代（n=178）	29.8	14.6	3.4	24.7	9.6	4.5	21.3	20.8
20歳代（n=118）	24.6	16.1	35.6	48.3	19.5	5.1	23.7	24.6
30歳代（n=234）	27.4	14.5	55.1	47.4	18.4	3.4	28.2	19.7
40歳代（n=265）	23.8	9.8	46.0	46.8	14.7	3.4	34.7	17.7
50歳代（n=243）	14.8	5.3	36.2	37.0	10.3	2.5	24.3	18.9
60歳代（n=342）	16.1	6.1	19.6	18.7	11.1	5.3	19.3	12.6
70歳以上（n=280）	11.8	5.7	8.9	9.6	8.6	4.3	8.6	11.1
	やりたい種目がない	体力に自信がない	家族の理解がない	情報がない	その他	特にない	不明・無回答	
【性別】								
男性（n=765）	5.4	12.9	1.7	5.6	5.2	16.1	4.3	
女性（n=903）	5.6	17.4	1.0	8.1	5.0	14.5	5.2	
【年齢別】								
10歳代（n=178）	11.2	11.8	0.0	5.1	5.1	18.5	1.7	
20歳代（n=118）	7.6	12.7	0.0	5.1	8.5	6.8	0.8	
30歳代（n=234）	3.8	10.3	2.1	7.7	5.1	5.1	2.6	
40歳代（n=265）	3.0	18.5	4.5	6.8	2.6	7.5	0.8	
50歳代（n=243）	4.9	16.9	0.8	5.8	6.2	13.6	2.9	
60歳代（n=342）	5.8	16.7	0.3	10.8	5.6	18.4	6.1	
70歳以上（n=280）	4.3	16.1	0.4	4.3	4.6	28.9	14.3	

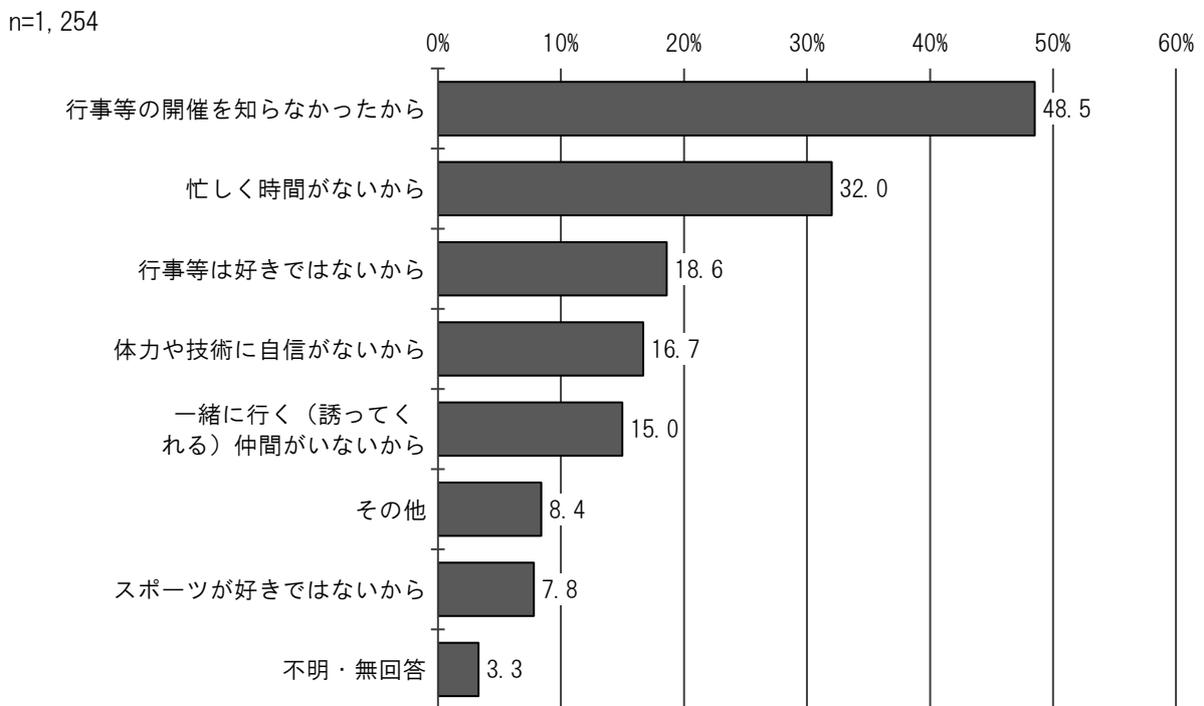
●地域におけるスポーツの大会や行事に参加したことがありますか。

スポーツの大会や行事の参加について、「参加したことがある」は24.0%となっています。



●参加しなかった理由は何ですか。【地域におけるスポーツの大会や行事に参加したことがない方のみ】

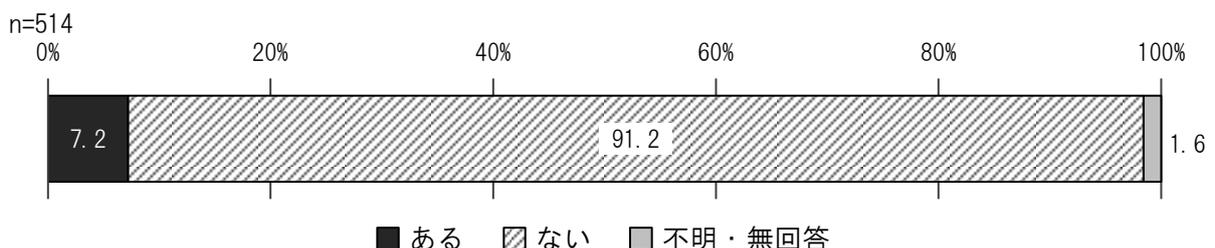
参加しなかった理由については、「行事等の開催を知らなかったから」が最も多くなっています。



③スポーツを支える・応援することについて

●スポーツに関するボランティア活動を行ったことがありますか。

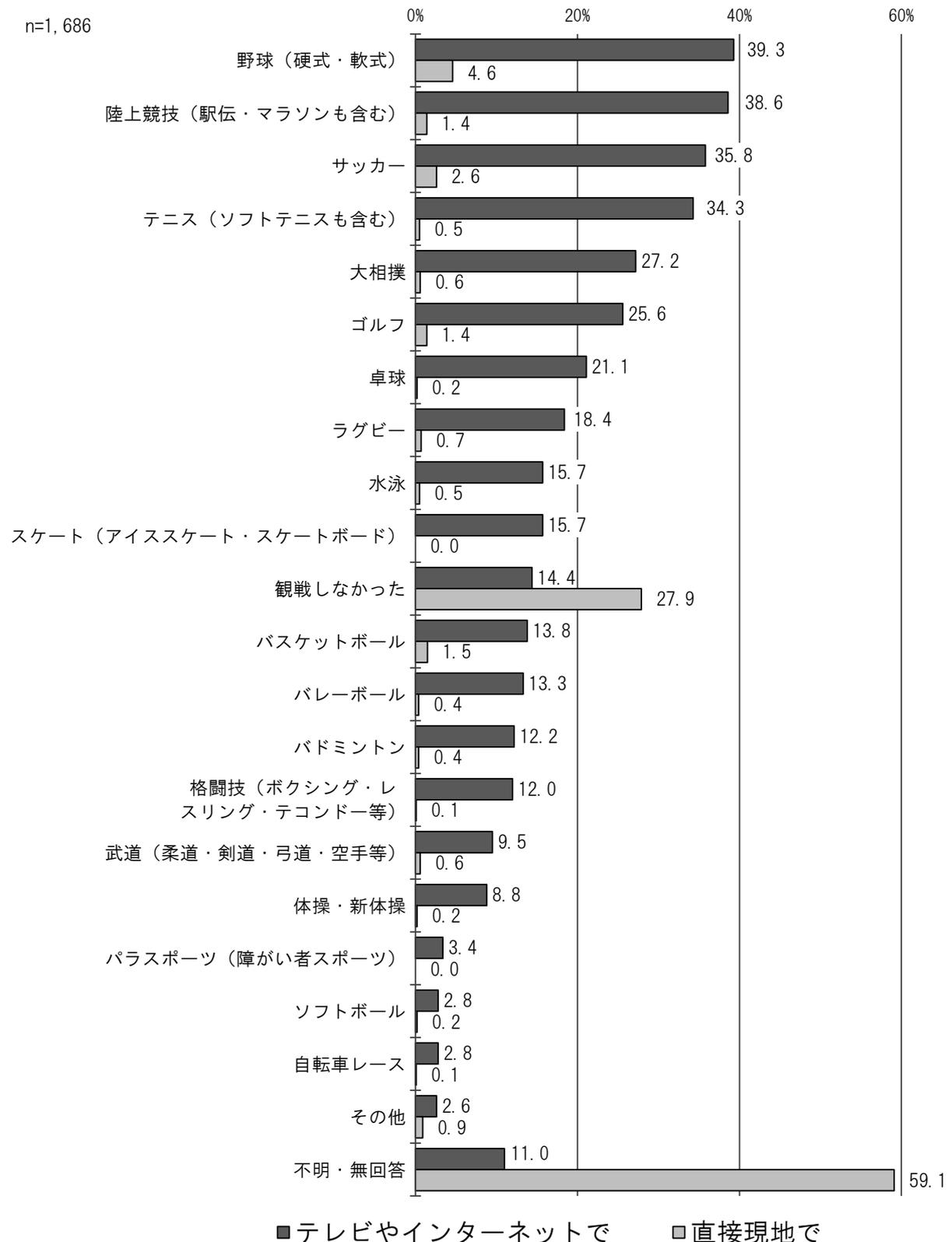
ボランティア活動の参加経験の有無については、ほとんどの方が「ない」となっています。



●この1年間にどんなスポーツを観戦しましたか。

この1年間のスポーツ観戦の状況について、直接現地での観戦ではコロナ禍の影響もあり「観戦しなかった」が最も多くなっています。観戦した競技では「野球」が最も多く、次いで「サッカー」「バスケットボール」となっています。

テレビやインターネットでの観戦では、「野球」が最も多く、次いで「陸上競技」「サッカー」となっています。

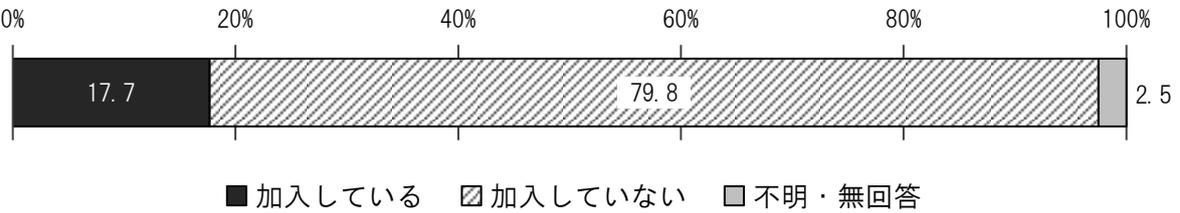


④スポーツを行う団体について

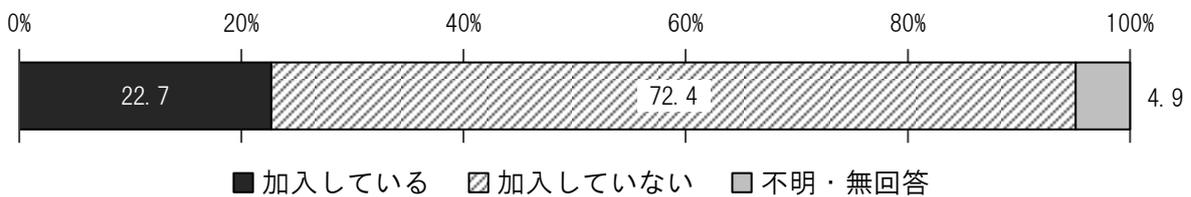
●スポーツのクラブやサークルに加入していますか。

スポーツのクラブやサークルへの加入については、「加入している」が17.7%となっています。前回調査と比較すると、「加入している（22.7%）」の割合が5%減少しています。

n=1,686



【前回調査（H18）】

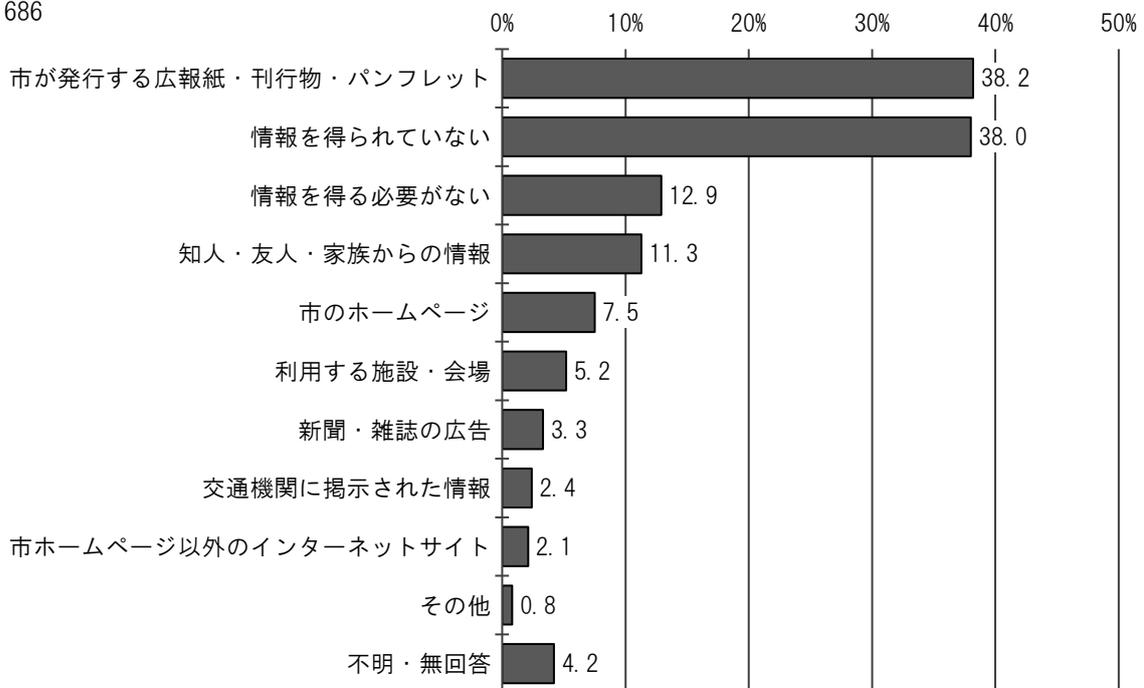


⑤運動・スポーツに関する情報について

●印西市の運動・スポーツ情報をどのようにして得ていますか。

情報の入手先については、「市が発行する広報紙・刊行物・パンフレット」が38.2%と最も多い一方、「情報を得られていない」も38.0%となっています。

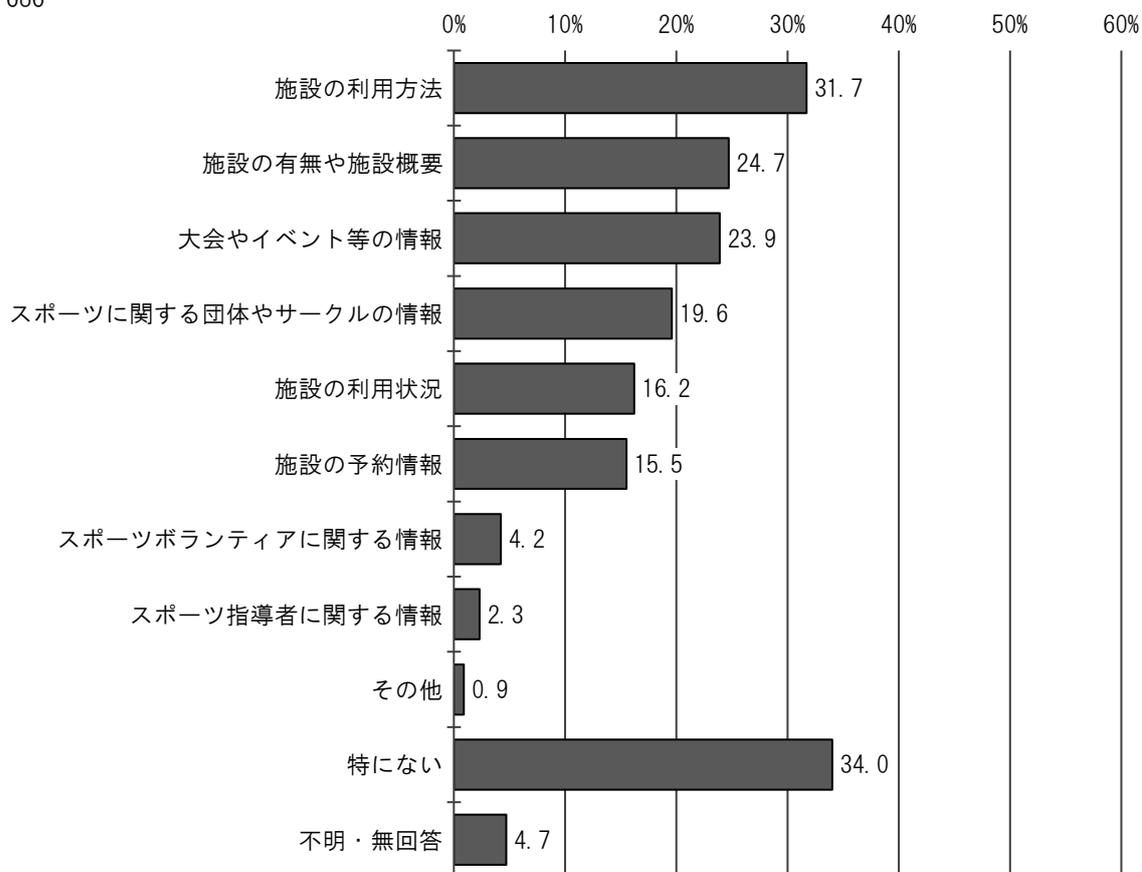
n=1,686



●知りたい印西市の運動・スポーツ情報は何ですか。

知りたい印西市の運動・スポーツ情報については、「施設の利用方法」が31.7%、「施設の有無や施設概要」が24.7%となっています。

n=1,686

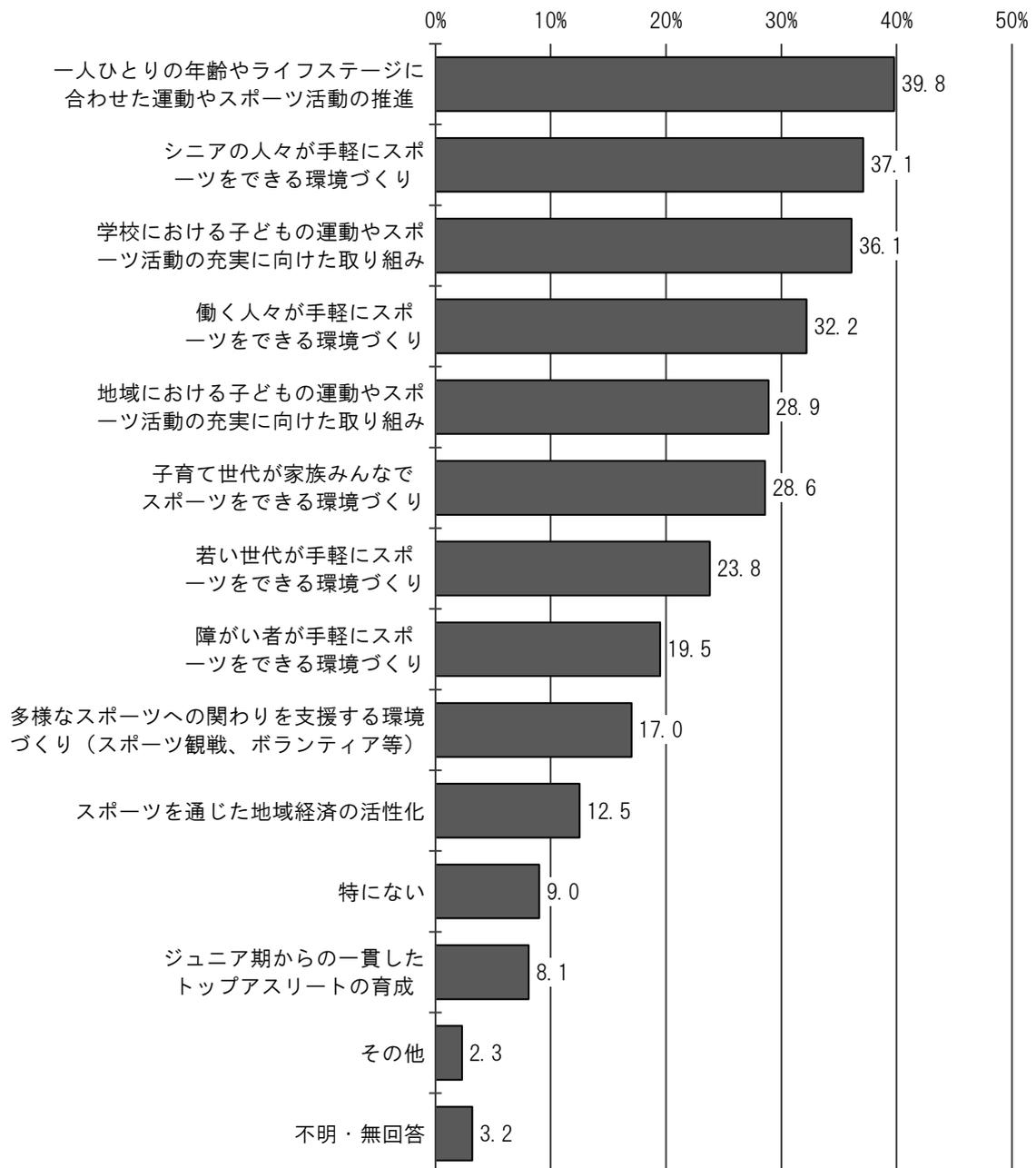


●今後、印西市はどのような運動・スポーツ施策に力を入れるべきだと思いますか。

力を入れるべき運動・スポーツ施策については、「一人ひとりの年齢やライフステージに合わせた運動やスポーツ活動の推進」が最も多く、次いで「シニアの人々が手軽にスポーツをできる環境づくり」「学校における子どもの運動やスポーツ活動の充実に向けた取り組み」となっています。

性別にみると同様の傾向となっています。年齢別にみると、10歳代から40歳代の若い世代で「学校における子どもの運動やスポーツ活動の充実に向けた取り組み」や「若い世代が手軽にスポーツをできる環境づくり」、50歳以上で「一人ひとりの年齢やライフステージに合わせた運動やスポーツ活動の推進」「シニアの人々が手軽にスポーツをできる環境づくり」が多くなっています。

n=1,686



	学校における 子どもの運動 やスポーツ活 動の充実に向 けた取り組み	地域における 子どもの運動 やスポーツ活 動の充実に向 けた取り組み	一人ひとりの 年齢やライフ ステージに合 わせた運動や スポーツ活動 の推進	ジュニア期か らの一貫した トップアス リートの育成	若い世代が手 軽にスポーツ をできる環境 づくり	子育て世代が 家族みんな でスポーツを できる環境づ くり	障がい者が手 軽にスポーツ をできる環境 づくり
【性別】							
男性 (n=765)	34.0	29.8	39.6	9.8	25.1	26.3	17.6
女性 (n=903)	38.2	28.2	40.2	6.8	22.6	30.8	20.9
【年齢別】							
10歳代 (n=178)	50.0	21.3	24.2	11.8	34.3	23.6	20.8
20歳代 (n=118)	41.5	28.8	27.1	6.8	44.9	33.9	17.8
30歳代 (n=234)	48.3	39.3	27.8	12.4	26.9	49.1	15.0
40歳代 (n=265)	45.3	35.8	37.0	9.8	25.7	38.9	19.2
50歳代 (n=243)	29.2	28.8	56.8	9.1	16.0	21.8	24.3
60歳代 (n=342)	24.9	23.4	51.2	4.4	17.3	18.1	17.3
70歳以上 (n=280)	26.8	26.1	39.6	5.4	20.0	22.9	22.9
	働く人々が手 軽にスポーツ をできる環境 づくり	シニアの人々 が手軽にス ポーツをでき る環境づくり	多様なスポー ツへの関わり を支援する環 境づくり (ス ポーツ観戦、 ボランティア 等)	スポーツを通 じた地域経済 の活性化	その他	特にない	不明・無回答
【性別】							
男性 (n=765)	32.0	38.3	18.0	14.9	2.1	8.8	3.1
女性 (n=903)	32.2	35.9	16.5	10.6	2.5	9.2	3.0
【年齢別】							
10歳代 (n=178)	24.7	15.7	20.2	10.1	2.2	14.6	2.2
20歳代 (n=118)	42.4	21.2	17.8	14.4	1.7	8.5	2.5
30歳代 (n=234)	34.6	16.2	12.4	10.3	4.3	9.0	0.9
40歳代 (n=265)	44.2	24.5	18.9	15.1	3.0	6.8	1.5
50歳代 (n=243)	44.0	42.4	18.9	15.2	3.3	6.6	0.8
60歳代 (n=342)	24.0	57.6	17.3	10.8	1.2	6.7	3.2
70歳以上 (n=280)	19.6	56.8	15.7	13.2	1.1	12.1	8.2



3 団体調査からみる現状

(1) 調査の目的

スポーツによるコミュニティの形成・強化に向けた個別の課題や施策のアイデア・方向性を抽出し、計画策定の基礎資料とするために、市内のスポーツに関わる団体・事業者などに対し、活動を進めるにあたっての環境、指導体制、活動上の課題や今後必要な支援などを伺いました。

(2) 調査の概要

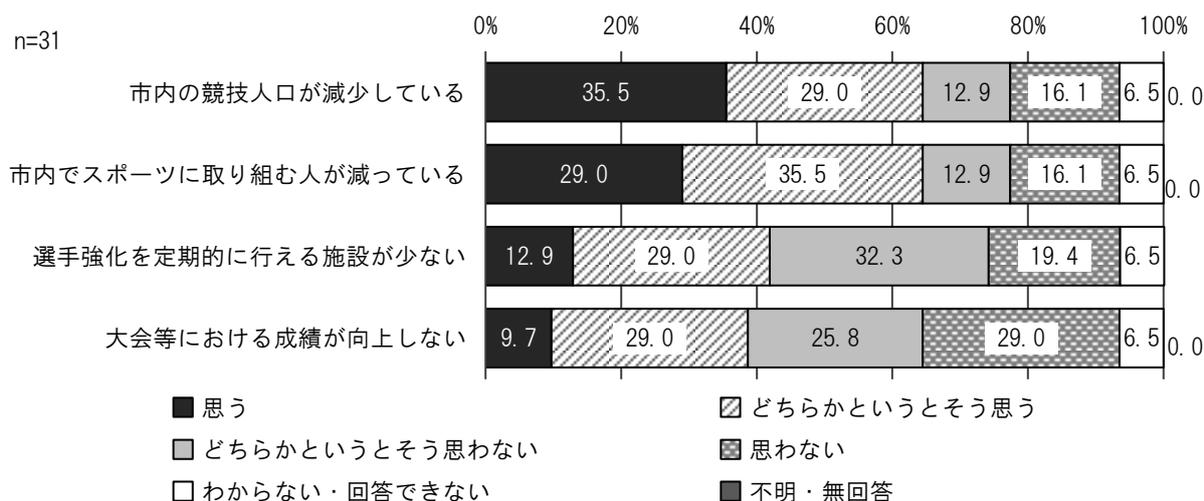
調査対象者	市内のスポーツに関わる団体など
調査期間	令和3年3月11日～3月25日
調査方法	郵送及びメール配布・回収
発送団体数	58団体
回答数	31団体
回答率	53.4%

(3) 結果の概要

①市内スポーツに対して感じていること

●スポーツ人口・競技人口について

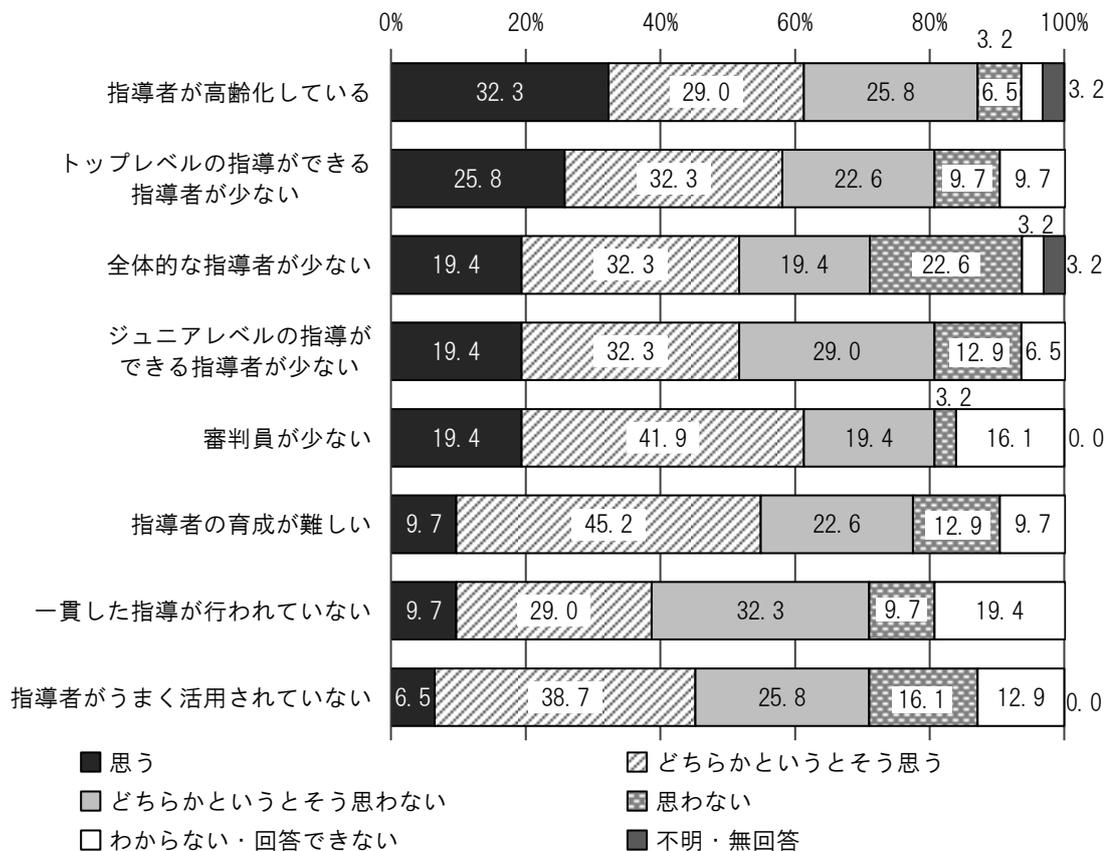
「市内でスポーツに取り組む人が減っている」や「市内の競技人口が減少している」で「思う」と思っている方が多くなっています。



●指導者等について

「トップレベルの指導ができる指導者が少ない」や「指導者が高齢化している」で「思う」と思っている方が多くなっています。

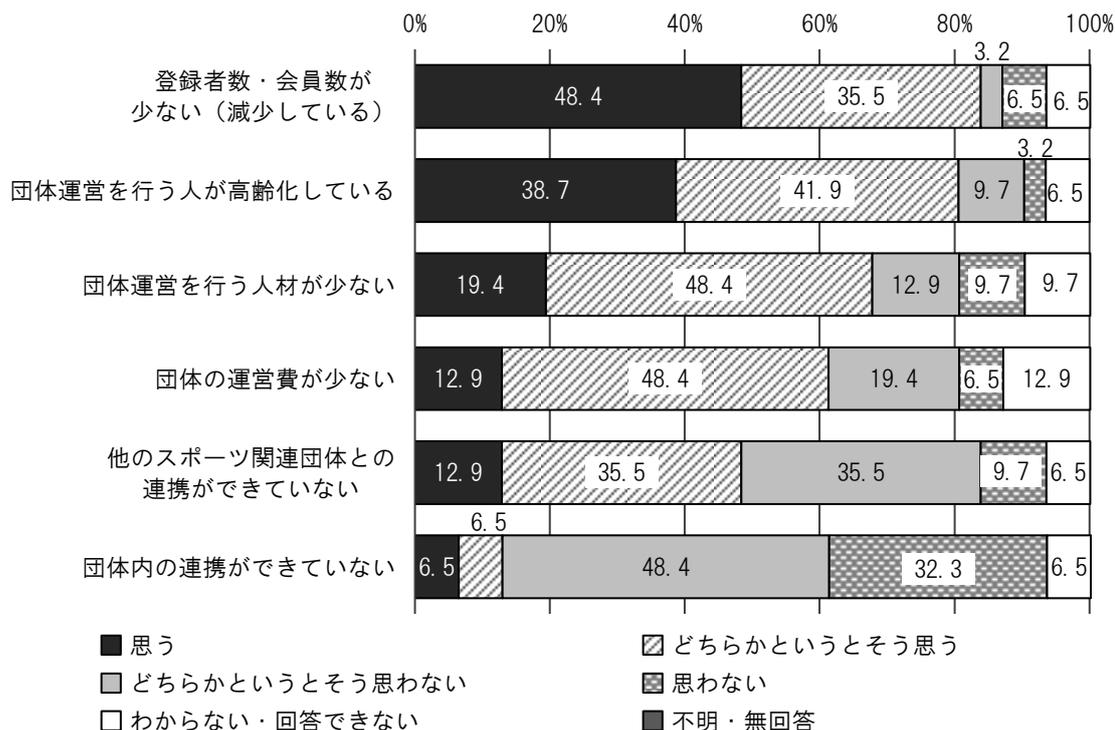
n=31



●団体の運営について

「登録者数・会員数が少ない（減少している）」や「団体運営を行う人が高齢化している」で「思う」と思っている方が多くなっています。

n=31



②地域におけるスポーツ振興について

●団体・事業者において、スポーツ活動を推進するうえでの課題について（自由記述）

【担い手、参加者不足】

- 市レベルの連携が皆無である。市民大会の開催は全くのボランティアである。
- ボランティア活動なので保護者の協力が欠かせないが、役員のなり手が少ない。自分の子どもが卒団後に引き続き指導者に留まりコーチ・運営者になる人も不足。
- 活動場所の制約があり、対外試合がなかなかできない。
- 若い人の参加がない。子どもたちの参加者がいない。
- 指導者が年をとってきている。
- 指導者不足。柔道という競技全般に言えることだが、競技人口の少なさ。中学校での部活動がない学校がほとんどのため、進学と同時に競技から離れてしまう。

【活動の場】

- 様々なライフスタイルに応じたスポーツ施設などの活動の場の充実。総合型スポーツ施設に近づけるように整備する。大学や医療施設、印西市、企業との連携の強化。

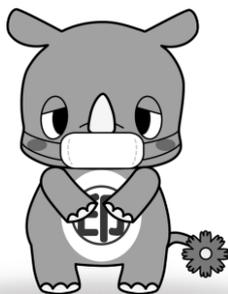
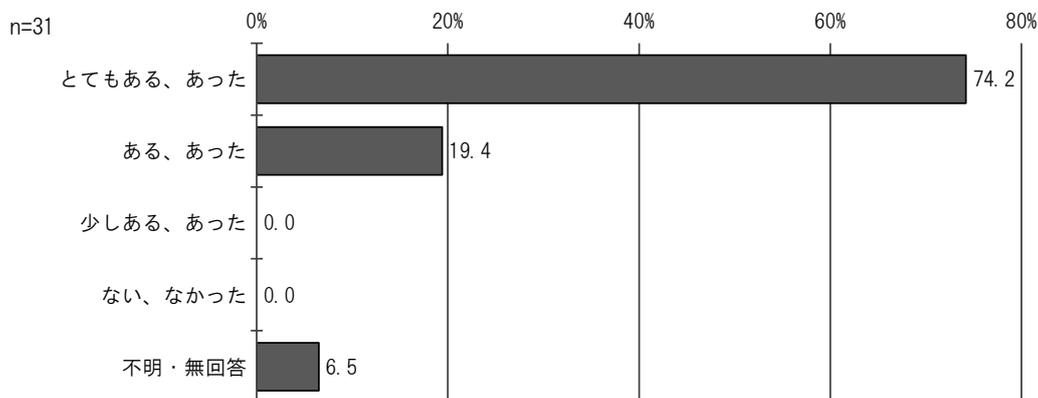
【活動の制限】

- 1人でも多くの方に健康増進、未来への投資を呼びかけ、“今こそフィットネス”を広めたい。特にコロナ禍になり、運動不足が国をあげての問題だと思う。
- 新型コロナウイルスの拡大により、令和2年度は市民大会が開催出来なかった。この状況下、今後競技者をどのようにして増加させていけるのか？ など

③新しい生活様式への対応について

●新型コロナウイルスの拡大による活動への影響について

多くの団体で新型コロナウイルスの影響を受けています。



●活動への影響については、具体的にどのようなことがあったか（自由記述）

【活動への制限】

- 活動が制限され、会員同士の目標に向かった一体感が薄れ、気持ちがバラバラになった。役員の高齢化を考えると今後継続していくことは困難である。
- 活動の休止（学校体育施設利用禁止期間中）。対外試合の制限（学校施設では禁止）。地域大会の大幅減。
- 練習量が少なく大会が中止になったため、チームのコミュニケーションの不足。
- 活動場所、時間の制限。活動して良いのか、自粛すべきなのか、連盟からの明確な指示がなく、市内チームの活動に統一性がなかった。

【身体的、経済的な負担】

- 試合前のチェックシートの作成、検温などに時間がかかるようになり、試合数を減らすことになってしまい中止にせざるを得ない大会もあった。
- 施設の利用者は前年同月比ほぼ7割の収入減となっている。また令和2年4月、5月の全館休館、時短営業、イベントなどの自粛など活動が制限された。

【会員数への影響】

- クラブの会員数に影響が出ている。コロナ予防に対する知識に個人差が大きく、誤解をしている方が多い。ステイホームの影響により健康が脅かされている。
- コロナ禍でスポーツを続けることができず、やめてしまう子どもたちが増えてしまった。
- 特に年配の者が活動を続けられずやめてしまうのではないかと心配をしていた。 など

●コロナ禍において、貴団体・事業者がスポーツ活動の再開・継続に向けて取り組んでいることについて（自由記述）

【消毒、マスク等】

- 消毒、手洗いの徹底と継続。密を避けるため、時間の短縮と分割（高学年と低学年で分散）
- 練習時等における、マスク、消毒、三密防止の徹底。
- 団体ごとに独自に対策は行っている。ただコンタクトスポーツであるということと、不特定多数の参加出来るイベントなどを管理運営するには人手が足りないのが現状。コロナが終息するまではなかなか難しい。
- FIA（フィットネス産業協会）の指標を遵守し運営している。”今こそフィットネス”をスローガンに掲げ、日々一般の方へも周知活動をしている。
- 感染予防の徹底と毎日の体温を計り、発熱者がいた場合は休んでもらう。行政の言うこと以上のことを行い、ルールを守って行って感染拡大防止を徹底している。遠征なども行わない。

【新しい活動方法の提供】

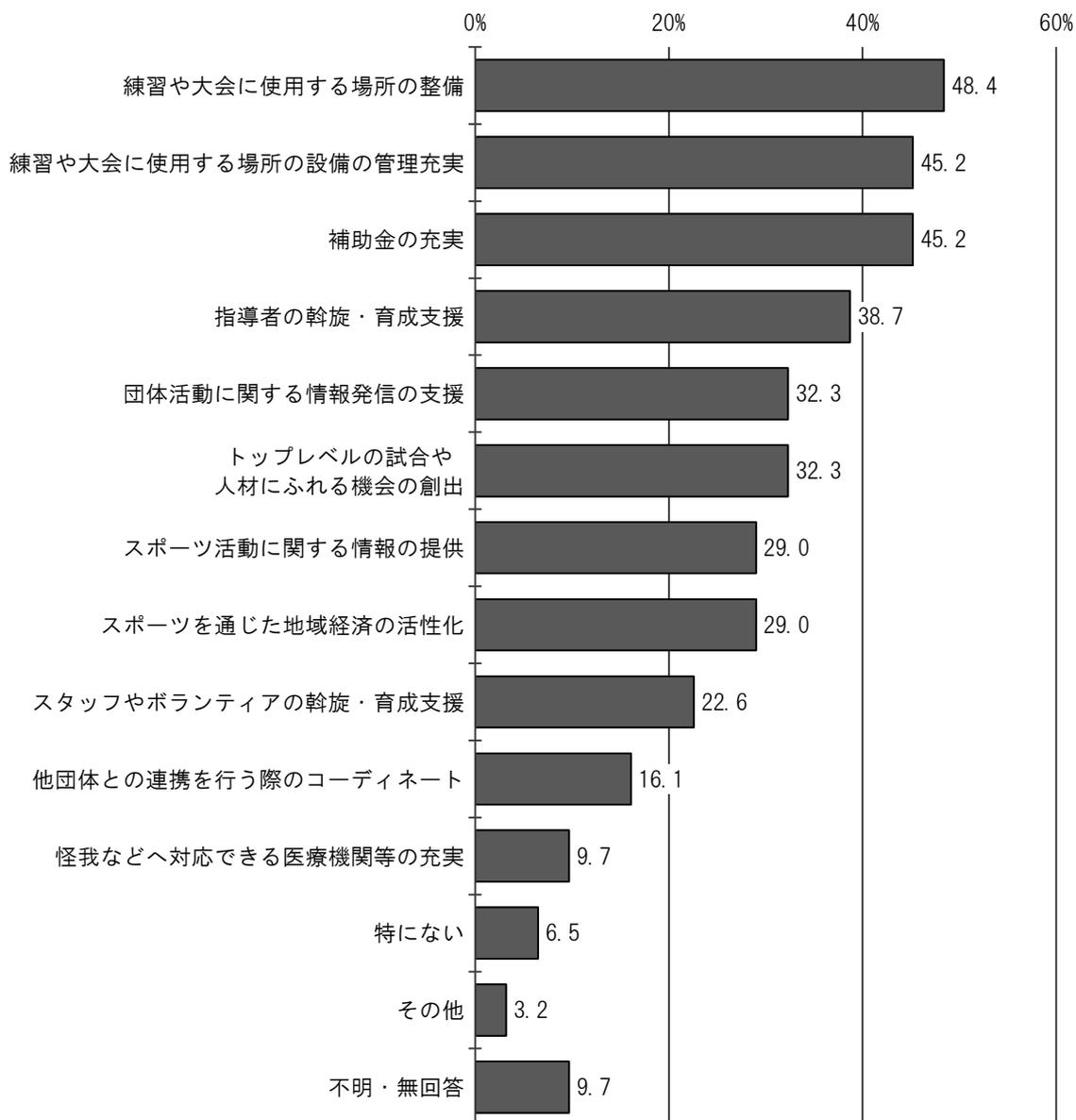
- ユーチューブでの配信レッスンの実施。コロナ対策を徹底し、安心・安全にご利用いただける施設の環境作り。
- 自宅でのトレーニング、人のいない時のジョギングなどを勧めているが、それぞれ感染予防に努める事が第一だと思う。
- 選手（子どもたち）のモチベーションを保つこと

④今後の方向性について

●印西市におけるスポーツ振興に向けて、市にどのような支援を期待するかについて

「練習や大会に使用する場所の整備」や「練習や大会に使用する場所の設備の管理充実」「補助金の充実」などが多くなっています。

n=31



4 現行計画の評価

前期計画に当たる印西市教育振興基本計画（生涯学習・生涯スポーツ編）の達成状況を図るため、設定した目標指標の達成状況を検証しました。

教育振興基本計画の目標指標の達成状況については、令和2年度では新型コロナウイルスの影響もあり、実績値が目標値を下回っています。参考として令和元年度（スポーツフェス・スポーツ教室参加者数は平成30年度）の実績値をみると、いずれも目標値を下回っています。

■教育振興基本計画の目標指標の達成状況（令和3年度目標）

項目	目標値	実績値 (令和2年度)	参考 (令和元年度)
市民スポーツ大会参加者数	9,800人	619人	7,462人
スポーツフェス・スポーツ教室参加者数	7,500人	3,624人 ※スポーツ教室のみ	5,129人 ※平成30年度
スポーツ団体（スポーツ協会・スポーツ少年団）加入者数	4,100人	3,518人	3,634人
スポーツ施設利用者数	549,300人	591,456人	373,526人
スポーツ指導者数	184人	161人	163人

※令和元年度のスポーツフェスは台風により中止となったため、上表「参考」の欄では平成30年度の数値を直近の数値として用いた。

また、令和3年度に策定された印西市総合計画における「スポーツ活動の推進」分野の成果指標をみると、現状値はいずれも目標値を下回っています。

■印西市総合計画における「スポーツ活動の推進」分野の成果指標（令和7年度目標）

項目	現状値	目標値 (令和7年度)
スポーツ活動の推進に関して満足している人の割合	34.6%（※R2）	45%
スポーツ教室参加者数	3,623人（※R1）	4,000人
スポーツ施設の稼働率（土日）	59.0%（※R1）	65.0%

※スポーツ活動の推進に関して満足している人の割合は、「満足」と「やや満足」の合計（令和2年度印西市市民満足度・重要度調査結果）

スポーツ教室参加者数、スポーツ施設の稼働率は実績値（スポーツ振興課調べ）

5 課題のまとめ

スポーツ参画人口の拡大と人材育成

- 団体調査では「指導者や運営者が高齢化している、不足している」といった意見や、会員も若い人を中心に減少しているといったことが課題としてあげられています。スポーツ活動の運営には若い人の協力が大切であることから、指導者の育成や新たな会員の確保に向けた取組みが重要です。
- スポーツの大会や行事の参加について、「参加したことがある」は2割台、ボランティア活動の参加状況も1割未満と低い状況となっています。スポーツの大会や行事に参加しなかった理由としては「行事等の開催を知らなかったから」が最も多くなっています。参加者の確保に向けた活動の周知や、理解の促進を図る必要があります。

スポーツ環境の充実

- 知りたい印西市の運動・スポーツ情報についてみると、「施設の利用方法」が31.7%、「施設の有無や施設概要」が24.7%と、スポーツ施設についての要望が多くなっています。市内のスポーツ施設に関する情報提供や環境の充実に努め、市民にとって利用しやすい施設の提供を行っていくことが重要です。
- 新型コロナウイルスの流行により、スポーツを行う頻度が流行前に比べ約10ポイント減っていることや、団体調査でも活動や大会・施設運営に制限が出ているといった意見が多く、運動やスポーツの実施や観戦の機会が失われており、それによる参加者同士のコミュニケーションの機会も減少しています。環境の変化に応じた新たな手法や工夫を取り入れ、スポーツ活動を継続していくための視点が重要です。

スポーツを通じた共生社会の実現と地域の活性化

- スポーツのクラブやサークルへ加入している割合が 17.7%と 10 年前と 15 年前 (22.7%) に比べ低くなっています。地域でのスポーツ活動の活性化のために、スポーツ活動団体の活動の周知に努める必要があります。
- 運動不足を感じる方が全体で約 8 割、特に働き盛りの 30 歳代から 40 歳代で約 9 割と特に多くなっています。運動やスポーツをしなかった理由は「仕事や家事が忙しいから」、「面倒くさいから」が理由として上げられており、運動・スポーツの妨げになる原因としても「時間がない」が最も多いことから、忙しい中でも継続して行える運動の周知や普及に努め、運動習慣の定着化を推進していく必要があります。
- 市に期待する運動・スポーツ施策について、若い世代では「学校における子どもの運動やスポーツ活動の充実に向けた取り組み」や「若い世代が手軽にスポーツをできる環境づくり」が、50 歳以上では「一人ひとりの年齢やライフステージに合わせた運動やスポーツ活動の推進」や「シニアの人々が手軽にスポーツをできる環境づくり」が求められています。世代のニーズに応じた運動・スポーツ施策の推進を図っていくことが重要です。

第3章 計画の基本的な考え方

1 基本理念

私たちが健康でいきいきとした生活を続けていくために、スポーツは欠かせないものです。また、スポーツを通じた生きがいづくりや住民同士の交流機会の創出など、地域の活性化にも寄与します。

そのため、生涯にわたってスポーツやレクリエーションに楽しむことができ、子どもから高齢者まで市民一人ひとりがいきいきと暮らしていける社会を実現するため、本計画の基本理念を「Sport in Life! みんないきいき ずっとスポーツを楽しめるまち いんざい」と定め、印西市のスポーツ施策を展開していきます。



Sport in Life!

みんないきいき ずっとスポーツを楽しめるまち いんざい



2 基本目標

基本目標1 スポーツ参画人口の拡大と人材育成

スポーツの振興には指導者などが大きな役割を果たしています。競技スポーツはもちろんのこと、生涯スポーツにおいては、「スポーツをする機会の少ない人」「普段スポーツをしていない人」の参加を促すためにも、行政だけでなくスポーツ協会、スポーツ推進委員、スポーツ少年団、スポーツボランティアなど市民との協働により、多様なスポーツ人材の育成を推進していきます。

市民のスポーツ活動を支える多様なスポーツ人材を育成するとともに、その活用を促進するように努め、スポーツ人口の拡大を図ります。

基本目標2 スポーツ環境の充実

スポーツを行うための拠点である施設の維持保全を行うとともに、市民がスポーツに親しみ、継続していくためのスポーツ環境の充実化や、スポーツ施設の観覧設備について、大規模な改修を行う際はバリアフリー化を行います。

また、各スポーツ施設を取り巻く環境や多様な施設を活用し、スポーツに取り組む環境の充実を図ります。

基本目標3 スポーツを通じた共生社会の実現と地域の活性化

子どもから高齢者まで市民一人ひとりが、生涯にわたってスポーツやレクリエーション活動により親しみ、体力の向上や健康の保持・増進を図っていただけるよう、スポーツに関する情報提供体制を整備するほか、各種教室やセミナー、スポーツ大会などを開催し、競技力向上の促進やスポーツを通じた地域コミュニケーションの醸成などを目指します。

3 計画の体系

基本理念	
Sport in Life! みんないきいき ずっとスポーツを楽しめるまち いんざい	
基本目標	施策の方向性
基本目標1 スポーツ参画人口の 拡大と人材育成	スポーツ指導者の育成
	スポーツボランティアの育成
	スポーツ団体等の活動支援
	競技力向上の推進
	特色あるスポーツ事業の展開
基本目標2 スポーツ環境の充実	既存スポーツ施設の維持管理
	自然とふれあえるスポーツ施設の活用
	利用者の視点に立った施設運営
	学校体育施設利用の活用
	スポーツ施設利用の多様化への対応
基本目標3 スポーツを通じた 共生社会の実現と 地域の活性化	スポーツ情報システムの充実
	スポーツによる共生社会づくりの推進
	スポーツを通じた地域コミュニケーションなどの醸成
	市民ぐるみのスポーツイベントの推進
	スポーツイベントの開催・誘致

第4章 計画の具体的な取り組み

基本目標1 スポーツ参画人口の拡大と人材育成

スポーツ指導者の育成

市民のスポーツ活動をささえる、多種多様なスポーツ指導者の育成を推進します。

●●具体的な取り組み

スポーツ指導者の育成

地域のスポーツ指導者として、多様な市民ニーズに応じられるよう、各スポーツ団体と連携し、研修会への参加や他団体との交流などによるスキルアップを図ります。

スポーツボランティアの育成

スポーツは「する」だけでなく「ささえる」視点が大切であることから、各種スポーツイベントやスポーツ活動をサポートするスポーツボランティアの活動の周知・育成を推進します。

●●具体的な取り組み

スポーツボランティア活動の推進

スポーツイベント等におけるスタッフや運営などへの参加促進や募集、地域団体等との連携により、スポーツボランティアの育成や活動の視野の拡大を推進していきます。

スポーツ団体等の活動支援

競技スポーツの選手を育成・強化するため、各種スポーツ団体等の活動を継続して支援していきます。団体活動の支援とスポーツ少年団の活動支援に努めます。

●●具体的な取り組み

スポーツ団体への支援と連携

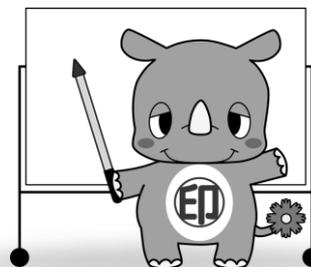
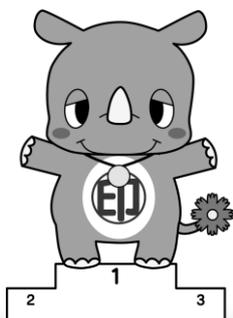
スポーツ団体への支援を行うほか、市民大会や講習会によるスポーツの啓発を各スポーツ団体と連携して行います。

競技力向上の推進

競技力向上のために選手との交流やセミナーの開催を推進します。

●●具体的な取り組み

トップレベル選手との交流	本市をホームタウンエリアとするプロスポーツチームや大学と連携したイベントを通じ、トップレベル選手との交流を図り、多くの市民が感動を共有したり、スポーツへの関心を高める機会を提供します。
専門的指導者等の活用支援	競技力向上を目指すために、企業や大学と連携して、専門的な指導者の活用を支援していきます。



特色あるスポーツ事業の展開

市民が楽しめるスポーツとして、スポーツクライミングやパークゴルフなど、印西市における特色あるスポーツの推進を行います。

●●具体的な取り組み

クライミングの普及・推進	松山下公園総合体育館のクライミングウォールを活用し、市民に親しまれるスポーツとしてのクライミング競技の普及に努めます。
パークゴルフの普及・推進	泉公園パークゴルフ場の利用促進など、身近で気軽なスポーツとして楽しむことができるパークゴルフのさらなる推進を図ります



【成果指標】

- ①スポーツに関するボランティア活動を行ったことがある割合
7.2%（令和2年度）→12.0%（令和8年）
- ②スポーツ指導者数
161人（令和2年度）→170人（令和8年）
- ③スポーツ団体（スポーツ協会・スポーツ少年団）加入者数
3,634人（令和2年度）→3,800人（令和8年）

※成果指標については「印西市第2次実施計画」の成果指標を元に設定。

基本目標 2 スポーツ環境の充実

既存スポーツ施設の維持管理

既存のスポーツ施設の改修時等にあわせ、バックヤード（附帯施設）整備やバリアフリー化を、現状を踏まえた上で推進していきます。

また、松山下公園を市民のスポーツ活動の拠点として今後も維持できるよう、大規模なスポーツイベントが開催可能な機能、設備を備えた施設の維持管理に努めます。

●●具体的な取り組み

スポーツ施設の維持保全	スポーツ施設が安全・安心に利用できるよう計画的な補修・更新を実施します。また、スポーツ施設の観覧施設について、大規模な改修を行う際は、バリアフリー化を行います。
-------------	--

自然とふれあえるスポーツ施設の活用

河川や湖沼、田園など豊かな自然環境や公園、緑地などを活用した既設のウォーキングロードやジョギングコースなどを活用します。

●●具体的な取り組み

ウォーキングロードの活用	松山下公園周辺などに、豊かな緑と田園を活用したウォーキングロードを設定します。
ジョギングコースの活用	ジョギングコースを設定し、各所に案内板などを設け利便性を高めるなど、多くの市民が活用しやすいコースを設定します。

利用者の視点に立った施設運営

スポーツ施設の利用手続きの利便性向上を目指すなど、市民の視点に立った施設運営に努めます。

●●具体的な取り組み

スポーツ施設の管理・運営	指定管理者制度の導入を含め、利用しやすい施設管理や運営に努めます。
スポーツ施設に関する情報提供	市民がスポーツ施設を気軽に利用できるよう、施設の利用方法や施設に関する情報を提供します。

学校体育施設の活用

市民が身近にスポーツ活動に親しめる場として、学校体育施設を有効に活用します。

●●具体的な取り組み

学校体育施設開放事業

体育館やグラウンド、夏季休業中の小学校プール、学校体育施設の有効活用を図ります。

スポーツ施設利用の多様化への対応

多様なスポーツ施設のニーズに対応するために、民間施設などを含め、より一層の施設利用を推進します。

●●具体的な取り組み

民間施設の有効活用

民間所有地などを継続的に借用し、市民がスポーツ施設として有効活用できるように努めます。

【成果指標】

① スポーツ施設利用者数

358,197人（令和2年度） ⇒ 420,000人（令和8年度）

基本目標3 スポーツを通じた共生社会の実現と地域の活性化

スポーツ情報システムの充実

スポーツに関する情報の入手はスポーツへの参加に大きな役割を果たすことから、様々なスポーツ関連の情報を収集し、市民にわかりやすく提供します。

●●具体的な取り組み

公共施設予約システムの有効活用	現在稼働している「公共施設予約システム」を有効に活用していきます。
多様な情報提供体制	市広報やホームページ、SNSなどを活用し、スポーツ情報の発信に努めます。

スポーツによる共生社会づくりの推進

運動やスポーツを通じた健康の保持増進に取り組んでいきます。また、市民の誰もが参加しやすいスポーツ教室やイベントの情報発信および開催により、スポーツにふれる機会を提供していきます。同時に、新型コロナウイルス感染予防対策を講じながら、これらを継続して実施できるよう支援します。

●●具体的な取り組み

スポーツを通じた健康づくりプログラムの提供	トレーニング機器を活用するほか、専門家の指導等により、健康づくりを支援していきます。(松山下公園総合体育館・健康づくりセンター)
スポーツ健康相談窓口の推進	スポーツ・健康づくりに関する市民の様々な相談に対応するとともに、運動方法などのプログラムを提供します。
スポーツセミナーの開催	手軽に取り組むことのできる健康づくりや具体的な運動方法を指導し、健康への意識啓発を図ります。
健康生活コーディネート事業	ヘルスアップ教室の実施や、メディカルチェック及び生活習慣調査に基づき、個人の状況に応じた運動プログラムを提供します。
スポーツ教室の推進	各種スポーツ教室を開催し、子どもから大人まで気軽に始められるきっかけづくりに取り組めます。
高齢者が参加できる運動機会の推進	住民同士が集まって運動や地域づくり、交流が行えるグループの活動を後方支援します。また、日常生活に運動を取り入れるためのチラシを作成・配布をするなどの普及啓発に努めます。
高齢者向け教室の開催	介護予防教室として、認知症予防のための運動を含む内容の教室を開催します。
障がい者向け運動・スポーツプログラムの周知・普及活動	誰もが楽しめるスポーツの推進に向けて、情報提供や環境の整備を行います。また、パラスポーツの周知や普及を促進します。
スポーツボランティアの活用	障がい者のスポーツ参加を促進するため、スポーツボランティアの活用を支援します。

スポーツ団体、障がい者団体などとの連携推進

障がい者がスポーツに取り組みやすくするため、各種団体などの連携を図り、一緒に参加できるような支援を行います。

スポーツを通じた地域コミュニケーションなどの醸成

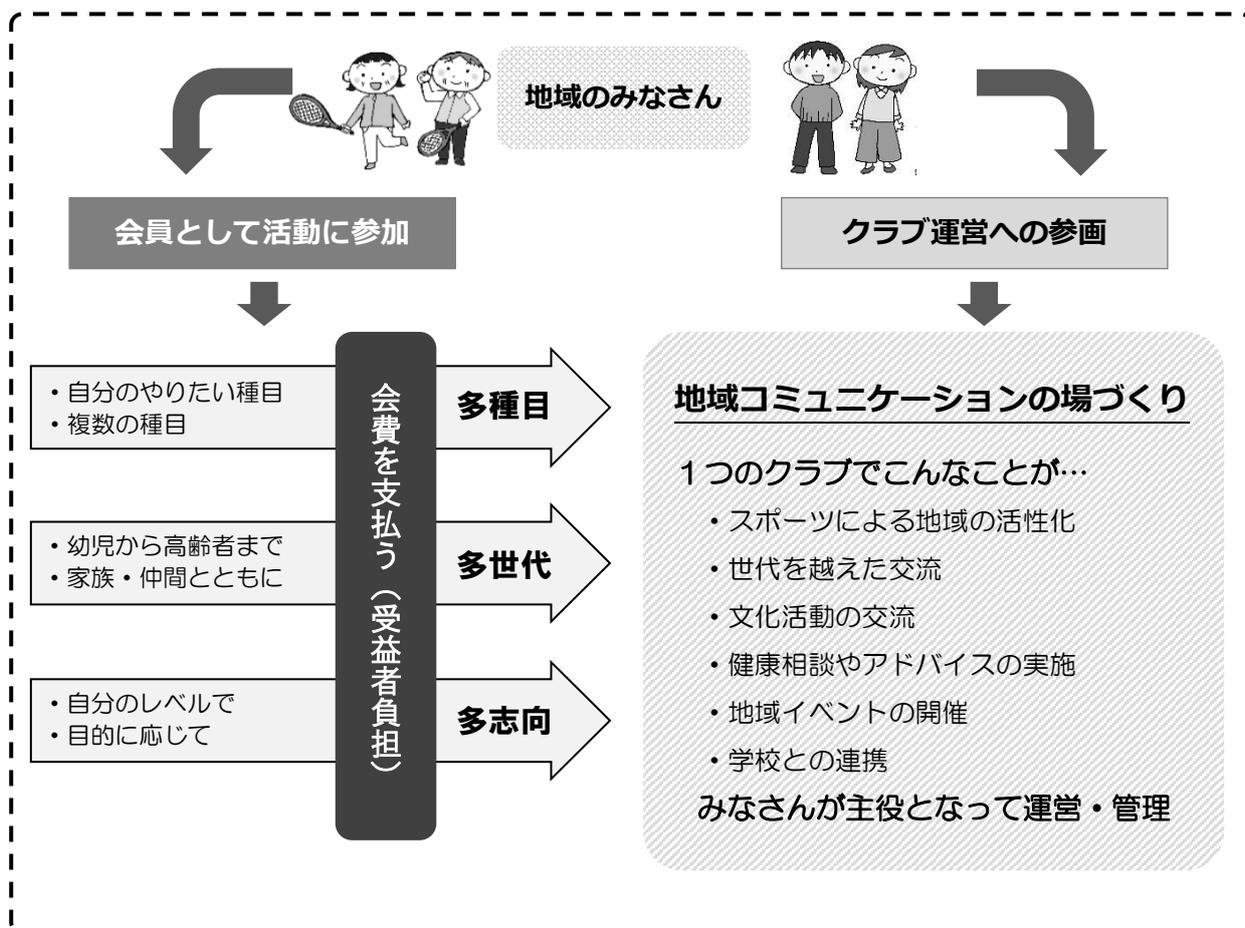
子どもから高齢者までが「いつでも どこでも 誰とでも」気軽にスポーツを楽しみ、健康づくりや地域のコミュニケーションを醸成する場として「総合型地域スポーツクラブ」の支援を行い、市民への情報発信などを支援します。

●●具体的な取り組み

総合型地域スポーツクラブの支援

総合型地域スポーツクラブの活動について、情報発信などの支援を行います。

●●総合型地域スポーツクラブのイメージ



市民ぐるみのスポーツイベントの推進

市民の関心を高めるため、魅力あるイベントづくりを推進します。

●●具体的な取り組み

市民ぐるみスポーツイベントの開催	市民ぐるみのイベントのPR活動や内容の充実を図ります。
------------------	-----------------------------

スポーツイベントの開催・誘致

市民がトップアスリートの競技を観て楽しむとともに、スポーツへの関心を高めるようイベントの誘致を推進します。

●●具体的な取り組み

スポーツイベントの誘致	松山下公園などのスポーツ施設を活用し、魅力的なイベントを積極的に誘致していきます。
-------------	---

【成果指標】

①週一回以上のスポーツ実施率

48.4%（令和2年度） ⇒ 54.0%（令和8年度）

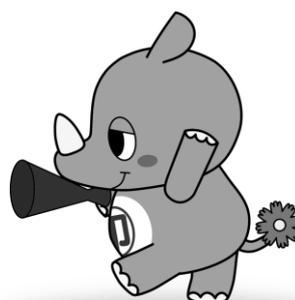
②市民スポーツ大会参加者数

619人（令和2年度） ⇒ 870人（令和8年度）

③スポーツ団体（スポーツ協会・スポーツ少年団・ 総合型地域スポーツクラブ）人数

3,734人（令和2年度） ⇒ 3,860人（令和8年度）

※成果指標については「印西市第2次実施計画」の成果指標を元に設定。



資料編

1 印西市スポーツ推進審議会条例

○印西市スポーツ推進審議会条例

平成17年12月14日条例第30号

改正

平成19年3月2日条例第4号

平成23年10月7日条例第18号

平成31年3月12日条例第1号

印西市スポーツ推進審議会条例

(設置)

第1条 スポーツ基本法（平成23年法律第78号。以下「法」という。）第31条の規定により、印西市スポーツ推進審議会（以下「審議会」という。）を置く。

(所掌事務)

第2条 審議会は、市長の諮問に依りて、スポーツの推進に関する次の事項について調査審議し、及びこれらの事項に関して市長に建議する。

- (1) 法第10条第1項に規定する地方スポーツ推進計画に関すること。
- (2) 法第35条の規定により補助金の交付について意見を述べること。
- (3) スポーツの施設及び設備の整備に関すること。
- (4) スポーツの指導者の養成及びその資質の向上に関すること。
- (5) スポーツの事業の実施及び奨励に関すること。
- (6) スポーツ団体の育成に関すること。
- (7) 前各号に掲げるもののほか、スポーツの推進に関すること。

(組織)

第3条 審議会は、委員10人以内で組織し、市民の代表者、スポーツに関する学識経験のある者及び関係行政機関の職員のうちから、市長が委嘱又は任命する。

2 委員の任期は、2年とする。ただし、再任は妨げない。

3 委員が欠けた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第4条 審議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選により定める。

2 会長は、会務を総理し、審議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 審議会の会議は、必要に応じ会長が招集し、会長が会議の議長になる。

2 会議は、委員の半数以上が出席しなければ開くことができない。

- 3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 4 審議会は、必要があると認めたときは、関係者の出席を求め、説明又は意見を求めることができる。

(庶務)

第6条 審議会の庶務は、健康子ども部スポーツ振興課において処理する。

(委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、平成18年4月1日から施行する。
(特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正)
- 2 特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例(昭和31年条例第23号)の一部を次のように改正する。

(次のよう略)

附 則(平成19年3月2日条例第4号)

この条例は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成23年10月7日条例第18号)

(施行期日)

- 1 この条例は、公布の日から施行する。
(経過措置)
- 2 この条例の施行の際現に第2条の規定による改正前の印西市スポーツ振興審議会条例(以下「旧条例」という。)の規定により委嘱又は任命をされている印西市スポーツ振興審議会の委員である者は、その任期が終了するまでの間は、同条の規定による改正後の印西市スポーツ推進審議会条例(以下「新条例」という。)の規定により委嘱又は任命をされている印西市スポーツ推進審議会の委員とみなす。
- 3 この条例の施行の際現に旧条例により選任されている印西市スポーツ振興審議会の会長又は副会長である者は、それぞれ、新条例の規定により選任されている印西市スポーツ推進審議会の会長又は副会長とみなす。

附 則(平成31年3月12日条例第1号抄)

(施行期日)

- 1 この条例は、平成31年4月1日から施行する。

2 印西市スポーツ推進審議会 委員名簿

番号	氏名	委員区分	備考
1	大木 栄治	市民公募	
2	渡 正	学識経験者	会長
3	青柳 豊子	学識経験者	
4	小暮 文秋	学識経験者	
5	高梨 峰子	学識経験者	
6	新納 健也	学識経験者	
7	早野 敏	学識経験者	
8	谷口 裕代	学識経験者	
9	岡田 芳一	関係教育機関職員	

(敬称略)

3 策定経過

年月日	内容
令和3年1月29日	令和2年度第1回印西市スポーツ推進審議会
3月11日～3月25日	運動・スポーツに関する市民および関連団体アンケート
10月4日	令和3年度第1回印西市スポーツ推進審議会
11月25日	令和3年度第2回印西市スポーツ推進審議会
令和4年2月16日	令和3年度第3回印西市スポーツ推進審議会

4 用語解説

あ行

SNS	「Social Networking Service」の略称。ソーシャル・ネットワークともいう。個人間のコミュニケーションにより社会的なネットワークを構築するインターネットを利用したサービスのこと。代表的なものにLINE、Twitter、Facebook、Instagramなどがある。
-----	---

さ行

指定管理者制度	住民の福祉を増進する目的をもってその利用に供するための施設である公共の施設について、民間事業者等が有する技術を活用することにより、住民サービスの質の向上を図り、施設設置の目的を効果的に達成するために設けられた。
スポーツ基本法	国や地方公共団体、スポーツ団体等の関係者が一体となって施策を推進していくための重要な指針として、スポーツ施策の具体的な方向性を定めたもの。
スポーツクライミング	自身の体一つで素手と全身の筋肉だけを頼りに、垂直にそり立つ壁をカラフルなホールドを使いながら登る競技のこと。
スポーツ少年団	子どもたちのからだところを育てることを目的として活動している団体のこと。市内では現在 20 団体が活動している。
スポーツ推進委員	スポーツ基本法第 32 条に基づき、地域のスポーツ推進を担う非常勤の公務員で、市町村が委嘱する。

は行

パークゴルフ	クラブでボールを打ち、カップインするまでの打数を競い合う、ゴルフに似たスポーツのこと。年齢によるハンディキャップを感じることなく、世代を超えて一緒にプレーできる。
パブリックコメント	市民の市政への参画を進め、市民とのパートナーシップによる市政を推進することを目的に、市が計画を策定する場合などに、あらかじめ市の原案に対する市民の意見を聞くこと。
バリアフリー	「障壁がないこと」を指す。障害のある人、高齢者などの行動を阻害するような都市、環境、建築等の物理的バリア、さらに人間の心理的なバリア、そして社会的制度におけるバリアなど、すべての「障壁」を取り除こうという考え方。
ボランティア	個人の自発的な意思により、福祉などの事業活動に参加する人、もしくは行為そのもの。サービスとして提供される場合は無償と有償の場合がある。

印西市スポーツ推進基本計画

発行：印西市 健康子ども部 スポーツ振興課

千葉県印西市浦部 275

TEL：0476-42-8417

FAX：0476-42-8427

発行：令和4（2022）年3月